

AICA

AICA Group Report 2012



その技術を、地球に還したい。

アイカグループ社会環境報告書



アイカ工業株式会社

人や環境にやさしい製品づくりを、
これからも、ずっと。

90.4%

●「環境配慮型商品」の売上占有率

(2011年度)

アイカグループの展開する4つの事業



化成産品

Chemical Products

最先端の樹脂系産品から接着剤系産品まで、
化成産品のパイオニアとして、またアイカの事業
多角化の母体として多くの技術を蓄積しています。

■ 化学合成技術



建装材

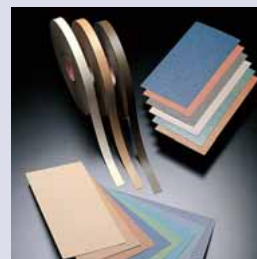
Laminated Sheets

メラミン化粧板を主軸に、多彩な色・柄・質感、
さらに新しい機能の付加で多様化・個性化する
ニーズに対応。業界シェアNo.1を誇ります。

■ 化学合成技術

■ 化粧板加工技術

■ 積層技術



住器建材

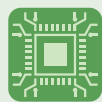
Housing Fixtures and Materials

自然と化学が調和した幅広い産品展開で、新しい
快適空間を提案。住宅から商業・医療・福祉の空間まで、
付加価値の高い建築部材の開発に取り組んでいます。

■ 化学合成技術

■ 化粧板加工技術

■ 木材加工技術



電子産品

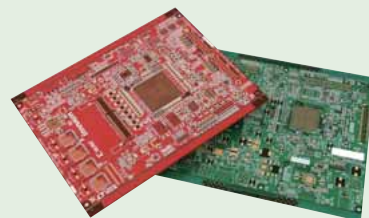
Electronics

長年培ってきた積層技術と化学合成技術を
生かして、高精度のプリント配線板を製造。
高度情報化社会の発展に貢献しています。

■ 化学合成技術

■ エレクトロニクス
技術

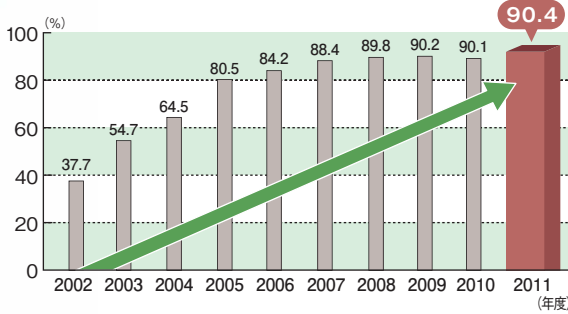
■ 積層技術



環境配慮型商品の進化

環境配慮型商品の販売では、厚生労働省指定のVOC13物質を使用しない商品の拡販等を進めた結果、売上占有率が90.4%となり、売上占有率9割を超えるレベルを維持しています。

▶ 環境配慮型商品の売上占有率の推移



主な環境配慮型商品

商品名	選定理由
エコエコボンド、スーパーエコエコボンド	環境負荷物質を削減
ジョリパットアルファ	耐汚染性機能向上
ノンスチFRP	環境負荷物質を削減
ジョリパットフレッシュフル、ジョリエース遮熱タイプ	遮熱、省エネ

主な環境配慮型商品

商品名	選定理由
セルサス (メラミン化粧板)	汚れが目立ちにくい
アイカフレアテクト	不燃材の軽量化
ノンスチポリ	環境負荷物質を削減
森林認証メラミン化粧板	持続可能な資源の採用

主な環境配慮型商品

商品名	選定理由
イースタンオークカウンター	植林再生木 (ゴムの木) を利用
セラール	ロングライフ
セラールonタイル工法	廃棄物削減 (処理・処分が不要または削減)
UDコンフォートシリーズ	高齢者など、人の動きに配慮

主な環境配慮型商品

商品名	選定理由
鉛フリー基板	環境負荷物質 (重金属) を削減
ハロゲンフリー基板	環境負荷物質 (ハロゲン) を削減

CONTENTS

アイカグループの事業紹介 1・2
 トップメッセージ、アイカ経営方針 3・4
 クローズアップ AICA 5・6
 トピックス 7・8

QEOマネジメントシステム 9・10・11
 コーポレートガバナンス 12・13
 経営リスク管理 14

△ 社会性報告 ▽
 従業員との関わり 15・16・17
 サプライチェーン上の関わり 18・19
 株主との関わり 20
 社会との関わり 21・22

△ 環境報告 ▽
 環境目標と進捗状況 23・24
 事業活動のマテリアルバランス 25
 環境会計 26
 地球温暖化防止 27・28
 生物多様性への対応 28
 環境負荷の低減 29・30
 環境リスク管理 31
 環境配慮型商品開発 32・33・34

第三者意見 35
 QEO活動のあゆみ 36
 会社概要、編集方針 37・38

アイカグループの事業のご案内

WEB ホーム ▶ 会社概要 ▶ 会社案内 ▶ 事業紹介
<http://www.aica.co.jp/company/profile/business/>

海外生産拠点 CSR活動

国内のアイカグループ企業は「環境経営」を中心に、CSR活動（企業の社会的責任）を実行してきました。本「社会環境報告書」では、CSRという言葉を使っていませんが、その活動内容を盛り込んで報告してきました。一方、2010年11月に「組織の社会的責任」についての国際規格ISO26000が正式発行され、国内外を問わず、「社会的責任」の活動状況を多くのステークホルダーに発信することが求められるようになってきました。本コーナー「クローズアップ AICA」では、海外生産拠点における取り組み事例を、組織統治等の「7つの中核主題」ごとにご紹介します。

7つの中核主題

1 組織統治

インドネシア 中国 インド

コーポレート・ガバナンス体制等（P12～P13）に準拠し、組織の統治が有効に機能しているか確認を行っています。

2 人権


中国

中国 昆山愛克樹脂有限公司では2009年、中共蘇州市委昆山經濟開發区工作により、「労働紛争がなく、労資関係が調和している」と評価されました。昆山開發区企業120社のうち、授与された比率は25%とのことでした。

3 労働慣行

インドネシア インド

インドネシア 2社では安全パトロールを毎月実施し、職場の安全環境の改善を行っています。インドの工場でも安全パトロールを随時実施しています。

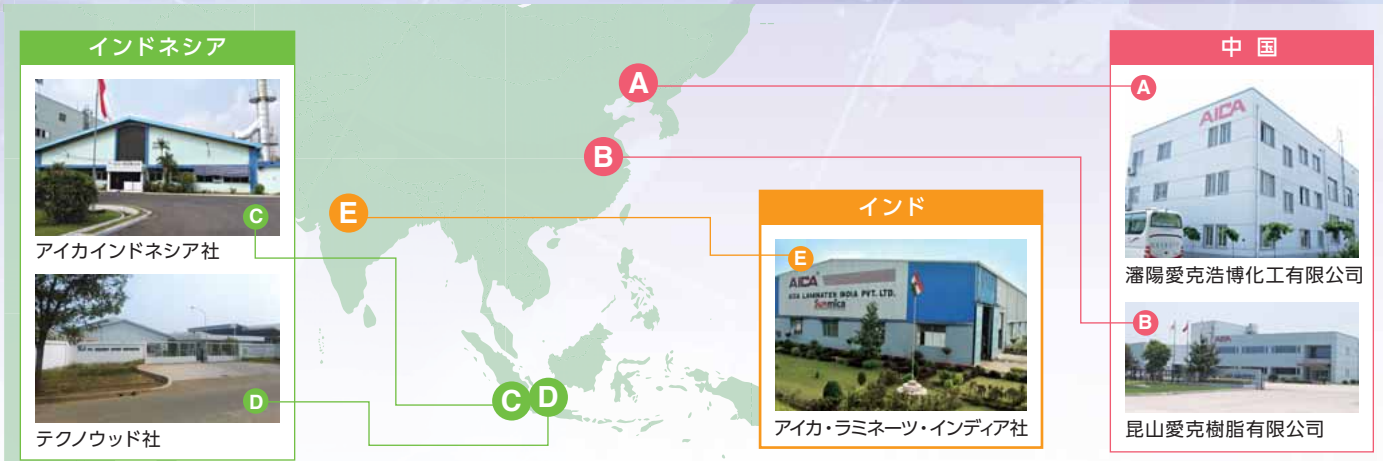


●インド アイカ・ラミネーツ・インディア社「パトロール結果のミーティング」

4 環境

インドネシア 中国 インド

インドネシア	アイカインドネシア社	廃棄物リサイクル	<p>廃棄物の削減プログラムを環境保全・処理費用の削減のため実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各工程におけるメンテナンス時の洗浄水、溶剤量の削減 ●200Lドラムを使用後は排水コンテナとして利用するなど ●メンテナンス、清掃時のウエス使用量の削減 ●梱包材料の再利用を推進中。
	テクノウッド社	廃棄物削減 電力使用量削減	<p>2006年2月にISO14001を認証取得し、その後維持審査を受審して産業廃棄物の削減に加えエネルギー使用削減による温室効果ガス削減を進めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●塗料の塗着率向上による廃棄樹脂の削減 ●主要原材料である合板のリサイクルシステムによる廃棄合板の削減 ●エアコンルームの設定温度変更による電力使用量の削減
中国	瀋陽愛克浩博化工有限公司	環境管理	<p>中国における環境基準も厳しく管理されており、月に一度環境局による現場検証も実施している状況です。騒音規制（昼60dB 夜50dB以下）やホルムアルデヒド（190mg/m³）及びメタノール（25mg/m³）等の廃棄ガス規制が実施されており、厳格に遵守するよう活動しています。</p>
	昆山愛克樹脂有限公司	温室効果ガス排出量削減	<p>売上当たりの温室効果ガス排出量を1割下げる目標を掲げて、以下の活動に取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●計画生産を改善し、キロあたりの電力使用量を削減する。 ●設備攪拌時間を見直し、電力使用量を削減する。
インド	アイカ・ラミネーツ・インディア社	廃棄物リサイクル	<p>廃棄物の多くはリサイクルしており、月約40トンになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中間製品（紙ベース）：各種敷板として社外でリサイクル使用。 ●金属類：ドラム缶などの金属類を社外リサイクル。 ●破棄製品：国内市場に別グレードとして販売し、利用。 ●樹脂濃縮水、下水：社内の廃水処理場にて凝集沈殿処理し、構内散水用に使用している。（毎月コンサルタントを経由して、水質検査実施継続中）



アイカグループのCSR活動はまだ途上の段階ですので、今後「7つの中核主題」を網羅した活動を実行していきます。

5 公正な事業慣行

インドネシア 中国

『アイカグループ社員の行動指針』資料 (P13) を用いて教育を実施しています。

6 消費者課題



インドネシア 中国 インド


インドネシア2社、中国2社、インド1社とも品質ISO9001を独自に取得し、品質活動を行っています。また、環境マークなどの認定をそれぞれで取得しています。

インドネシア		中国
アイカインドネシア社 GREEN GUARD 認定取得 (2011年8月) 対象品 不燃化粧板セラー、メラミン化粧板 	テクノウッド社 FSC-CoC 認証を取得 (2010年9月) 対象品 化粧合板 	昆山愛克樹脂有限公司 中国環境標識産品の認証を取得 (2005年11月) 対象品 ジョリパット

7 コミュニティへの参画、及びコミュニティの発展

インドネシア 中国 インド

インドネシア	中国
アイカインドネシア社 年一度の恒例の行事として、2011年4月に工場周辺の住民(自治会代表者へ)に対し清掃道具(草刈り機 1台、枝きり挟み 2台)を贈呈しました。	テクノウッド社 当社は、インドタイセイ工業団地内にあります。その中の日系企業連絡会を通じて、さまざまな社会貢献活動を行っております。2011年度については、 <ol style="list-style-type: none"> 1 地元小学校への学用品、教科書の配布。 2 地元小学校での絵画コンテストの実施。 3 地元住民及び従業員との文化交流会を開催。 を実施しました。文化交流会では日本文化の紹介を兼ねて当社従業員により神輿を作成し、地元住民と共に神輿を担ぎコミュニケーションを深めました。  <p>●文化の祭、ジャカルタ新聞記事 2011年11月21日掲載</p>  <p>●工業団地文化交流会の様子</p>

中国	インド
瀋陽愛克浩博化工有限公司 地域におけるスポーツ促進として、バスケットコート及び卓球設備を提供しています。	アイカ・ラミネーツ・インドニア社 北インド空手チャンピオンシップ(中学生以下)へ記念品等を寄贈の上、表彰式に出席し、テープカット、知的障がい者への記念品贈呈等を行いました。  <p>●空手大会への記念品寄贈</p>

2011年度トピックス

● 第15回環境コミュニケーション大賞 奨励賞受賞

アイカ工業では環境報告書を1999年から制作してきましたが、「社会環境報告書2011」が「環境コミュニケーション大賞」の奨励賞を受賞いたしました。

「環境コミュニケーション大賞」とは、優れた環境報告書等を表彰することにより、事業者等の環境コミュニケーションへの取り組みを促進するとともに、その質の向上を図ることを目的とする、環境省と財団法人地球・人間環境フォーラムが主催する表彰制度です。

講評では、海外での取り組み報告を期待されていますので、今後海外の活動をピックアップして充実した報告書にしていきます。



● 賞状



● 表彰式写真

受賞作品講評

人や環境にやさしい製品づくりに取り組み、自社製品においては9割を超す商品が「環境配慮型製品」となり、本業における環境経営の高さがうかがえる。商品開発の際にライフサイクルアセスメントを活用し、生産から廃棄までの全般で環境に配慮した製品の提供に努めている。専門的な記述には注釈を付すなど一般読者でも理解を容易にさせる工夫が見られる。今後は海外の事業所における取り組みについても範囲に含めるなど、グループ全体での開示に期待したい。特に、海外ではISO26000が大いに活用されているので、自社の取り組みにも組み込むことが重要であろう。売上高1,000億円未満の企業からの環境報告は、超大企業にくらべ多くはないが、遜色なくがんばっている報告書である。



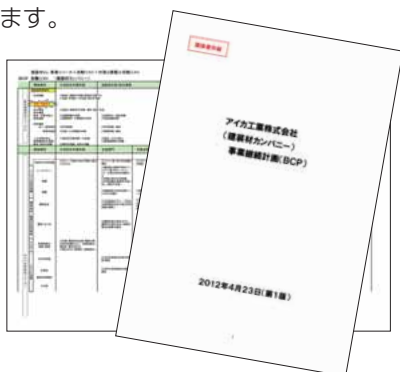
「第15回環境コミュニケーション大賞」受賞作品の決定について
http://www.gef.or.jp/eco-com/15th_ecom_result.htm

● 東日本大震災への対応

東日本大震災の発生により、事業を取り巻く環境は大きく変わりました。放射能汚染問題への対応、電力の安定供給の問題による節電対応、危機管理の問題と対応すべき課題が数多くあがってきました。

BCP策定

これまで、初期対応を定めた「地震防災規程」を中心に、防災という観点で取り組みを行ってきました。しかし東日本大震災を受けて、事業をいかに継続していくかという観点で対応策を検討するため、社内にプロジェクトを立ち上げました。現在、各事業ごとにBCP(事業継続計画)の有効性を確認するための訓練を計画する段階になりました。訓練の結果をもとにBCPをレビューして有効性の高いものとしていきます。



● BCP計画書冊子

東北地方復興支援 アイカプログラム

アイカグループでは、まず自社商品を通じて被災地の再建に貢献するよう、「東北地方復興支援 アイカプログラム」を4月1日より開始しました。これは期間中に出荷された商品(メラミン化粧板、セラルール、ジョリパット)の数量をポイントに換算し、1ポイントにつき1円を当社が「震災復興支援金」として寄付するものです。

アイカプログラム実施の期間(平成23年4月~9月)に集計されたポイントは2,728,365ポイントに達しました。

このポイント総数に271,635ポイント分を追加し、総額300万円を福島県鏡石町へ震災復興支援金として寄付させていただきました。



● プログラムの終了案内

● 小集団活動の活性化

オールアイカC&C大会開催

アイカ工業では小集団活動として、1970年ごろからC&Cサークル活動を推進しています。C&Cとは、チャレンジ&クリエーションの略で「挑戦と創造の精神」というスローガンのもと、小集団活動を推進し、品質・環境・安全を含めた、職場を活性化する活動です。

今年で第38回を数えます、C&C大会を6月に開催。成果を挙げた5つのサークルが発表し、その内容について審査員が聴講者の参考になるような講評をすると共に「金賞、銀賞、銅賞」の表彰を行いました。



● 第38回オールアイカC&C大会プログラム

QCサークルの社外発表

(全日本選抜QCサークル大会「銀賞」受賞)

一昨年度からQCサークル活動の本流である「一般財団法人日本科学技術連盟」の東海支部愛知地区発表会に、アイカグループとして7つのサークルが発表を行い、他業種との交流を深めています。

ESサークルは、全日本選抜QCサークル大会で「サークル運営事例」の成果を発表しました。全国から選抜された優れた発表の中から、銀賞を受賞することができました。アイカグループのサークル活動が全国に通用することが証明され、今後の活動にも弾みがついてくると期待されます。

● 社内QEOニュース第198号



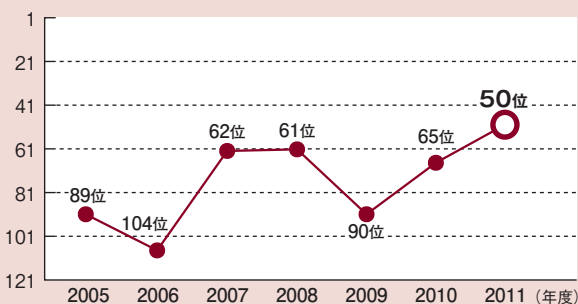
● QCサークル本部長賞銀賞受賞賞状

● 第15回「企業の環境経営度調査」で50位にランク

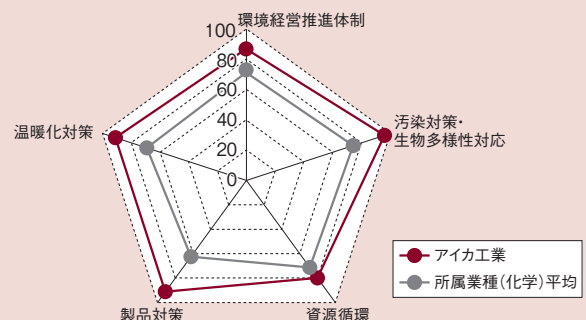
日本経済新聞社主催の第15回「企業の環境経営度調査」で、製造業449社(標本数は1,744社)中50位にランキングされました。当社の所属業種である化学部門では76社中3位のランクになっています。この評価は当社の環境保全活動がどのレベルにあるかを知る重要な指標の一つであります。

今回調査では、「温暖化対策」の項で東日本大震災(原発事故を含む)の影響によるCO₂増減量や、海外グループ会社の活動状況を問う設問が新規に追加されました。これらの質問項目にも十分対応できるよう、さらに強固な環境経営をめざします。

▶ 環境経営度調査年度別ランキング



▶ アイカ工業のスコアと所属業種(化学)との比較



Q・E・O マネジメントシステム

● アイカグループの環境経営

アイカグループにとって環境経営は経営の根幹を成すものとなっています。

まず、1998年に環境理念を制定しました。この理念のもと、環境ISO14001を認証取得し、環境負荷の低減と企業発展の両立を目指す環境経営に積極的に取り組んでいます。

アイカグループの環境経営とは、生産・管理・研究開発・販売の各部門において、品質・環境・労働安全衛生のマネジメントシステムを三位一体で展開することにより、各部門が総合的なバランスのとれた経営システムとしてスパイラルアップを目指すものです。

▶ アイカグループの環境経営



※用語解説：Qは品質(Quarity)、Eは環境(Environment)、Oは労働安全衛生(Occupational Health and Safty)を意味します。

● 品質、環境、労働安全衛生マネジメントシステム

アイカグループは品質をISO9001、環境をISO14001、労働安全衛生をOHSAS18001の管理システムを認証取得することによって、これら3つのマネジメントシステムを三位一体で運用することにより、各社が共通の目的・目標を

持ってグループの諸課題の改善に向けた活動を実施しています。この取り組み意識向上のため、「QEO方針カード」を国内関係会社及び構内で働く全ての人に配布しています。

▶ 品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステムの取得状況

事業所、会社名		ISO9001 品質	ISO14001 環境	OHSAS18001 労働安全衛生
管理部門	本社、東京本社	○	○	○
生産部門	本社工場、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場	○	○	○
研究開発部門	R&Dセンター(甚目寺)、R&Dセンター(福島)、丹波研究所、茨城研究室	○	○	○
販売部門	札幌支店、仙台支店、盛岡支店、福島駐在、東京支店、埼玉支店、横浜支店、千葉支店、北関東支店、宇都宮営業所、新潟営業所、松本駐在、名古屋支店、静岡支店、金沢支店、大阪支店、神戸支店、京都営業所、広島支店、岡山営業所、四国支店、福岡支店、鹿児島営業所	○	○	○
国内関係会社	アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)、アイカエレテック(株)、(株)アイホー	○	○	○
海外関係会社	アイカインドネシア社、テクノウッド社、昆山愛克樹脂有限公司、瀋陽愛克浩博化工有限公司	○	○	-

○：認証または適合証明を取得済み

瀋陽愛克浩博化工有限公司は2010年12月に環境ISOを再取得しました。

オールアイカ 品質方針
QEOシステムを三位一体で活用し、下記品質方針を
実践することで、経営品質の向上を図ります。

- 1. 安全への約束**
お客様の中や市場の信頼をもとに開発した商品の、施工並びに
使用に伴うリスクチェックを行い、継続的に安全性の向上を図ります。
- 2. 安心への約束**
常に高い品質を追求し、世界のお客様に安心していただける
商品・サービスを提供します。
- 3. 信頼への約束**
お客様の要求事項や法令・規制を遵守し、企業の社会的責任を果
たし、真にお客様に選ばれるグローバル品質を目指します。

品質方針達成のため、品質目標を定め適切に運用すると共に
継続改善します。また、これら品質マネジメントシステムが常に有効であるよう、
プロセスごとの運営管理に重点を置いた継続的な改善を進めます。

平成24年4月1日
アイカ工業株式会社
システム経営者 村瀬元康

オールアイカ 環境方針
QEOシステムを三位一体で活用し、下記環境方針を
実践することで、経営品質の向上を図ります。

- 1. 環境と人に優しい商品づくり**
地球環境への負荷が少ない安全、安心な商品の提供に努めます。
- 2. CO₂排出量削減**
省エネ活動の実行、モードシフトの活用、エコドライブを
実践し、CO₂の排出量を削減します。
- 3. 産業廃棄物の削減**
廃棄物の再生利用、リサイクル、分別を行い産業廃棄物の発生
を抑制します。
- 4. 地域との調和**
地域の環境保全活動や社会貢献活動に積極的に参加します。
- 5. 法令遵守**
適用される法令及び取り決めの事項を遵守します。

環境方針達成のため、環境目標を定め適切に運用管理する
と共に継続改善します。また、これら環境マネジメントシステムが常に有効であるよう、
方針の実践により継続的な改善と汚染の予防に努めます。

平成24年4月1日
アイカ工業株式会社
システム経営者 村瀬元康

オールアイカ 労働安全衛生方針
QEOシステムを三位一体で活用し、下記労働安全衛生方針を
実践することで、経営品質の向上を図ります。

- 1. 災害の無い快適職場の実現**
高品質の輸出入リスク低減活動を実施し、事故や災害の無い安全
な職場を実現します。
安全点検やPM活動を推進し、自発的な提案活動を通じて職場環
境の改善に努めます。
- 2. 健康な維持**
使用する原材料等の有害性評価と、適切な管理策を実施して健
康被害を予防します。
職場内でのコミュニケーションを奨励し、仕事の負荷をコン
トロールして心の健康維持を図ります。
- 3. 法令遵守**
適用される法令及び取り決めの事項を遵守します。

労働安全衛生方針達成のため、労働安全衛生目標を定め
適切に運用管理すると共に継続改善します。
方針の実践により安全衛生を継続的に改善します。

平成24年4月1日
アイカ工業株式会社
システム経営者 村瀬元康

オールアイカ 品質理念
私達はお客様に
満足していただける品質を提供します

平成22年6月23日
アイカ工業株式会社
社長 小野 善徳

オールアイカ 環境理念
私たちは環境の保全と地域との調和を図り
環境に優しい商品を提供します

平成22年6月23日
アイカ工業株式会社
社長 小野 善徳

オールアイカ 労働安全衛生理念
私達は労働安全衛生活動を推進し
健康で安全な快適職場を実現します

平成22年6月23日
アイカ工業株式会社
社長 小野 善徳

● 品質、環境、労働安全衛生方針

● 品質、環境、労働安全衛生理念



● 瀋陽愛克浩博化工有限公司
環境ISO 認定書



● QEO方針カード



● ISO 審査報告会

Q・E・Oマネジメントシステム

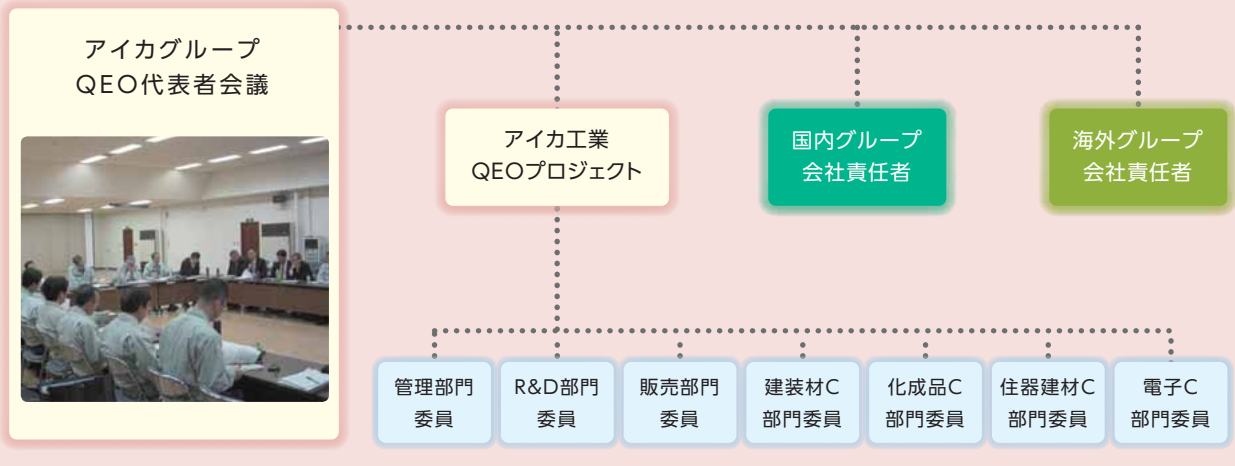
● アイカグループQEO推進体制

アイカグループの環境経営に関して審議し決定する重要な会議が、品質保証部担当/環境安全部長を議長とするアイカグループQEO会議です。

アイカグループの品質目標、環境目標、労働安全衛生目標の決定、実施の推進、その進捗状況の確認等を行っています。

2011年度は2011年10月と2012年3月に開催し、社長を筆頭に海外を含めたグループ会社を招集し、2011年度の活動実績を確認及び今後の活動について討議しました。

▶ 推進体制



● 品質・環境・労働安全衛生 教育

Q・E・Oマネジメントを推進する上で教育は非常に重要です。そのベースとなる品質や環境の基礎と知識となる資格の取得を2009年度から注力しています。

品質管理の手法となるQC手法を理解する「QC検定」や地球環境の状況を理解し、現在の取り組み例を学ぶ「eco検定」の資格を積極的に取得しました。

▶ 「QC検定」「eco検定」合格者 (2012年5月現在)

資格	合格者数	内訳	
QC検定 1級	1名	アイカ工業	1名
QC検定 2級	35名	アイカ工業	32名
		アイカインテリア工業	3名
		アイカ工業	96名
QC検定 3級	147名	アイカインテリア工業	11名
		アイカハリマ工業	6名
		アイカ電子	28名
		アイカエレテック	5名
		アイホー	1名
QC検定 4級	43名	アイカ工業	4名
		アイカハリマ工業	36名
		アイカエレテック	3名
eco検定	131名	アイカ工業	88名
		アイカインテリア工業	2名
		アイカハリマ工業	7名
		アイカ電子	21名
		ガンツ化成	4名
		アイホー	3名
		アイカエレテック	6名

● 品質・環境・OHS※ニュース

アイカグループの品質、環境保全、労働安全衛生に関する活動状況や関係法令が改正された場合、その周知を図るため「品質・環境・OHSニュース」を発行しています。2011年度は17件発行しました。

(第178号～第194号)

▶ 品質・環境・OHSニュース

第181号: ISO証明書

第192号: 昆山愛克樹脂でQC研修会

第194号: 25th企業の森づくり活動

第198号: 全日本選抜大会銀賞

※用語解説

※OHS: Occupational Health and Safetyの略。労働安全衛生のこと。

コーポレート・ガバナンス

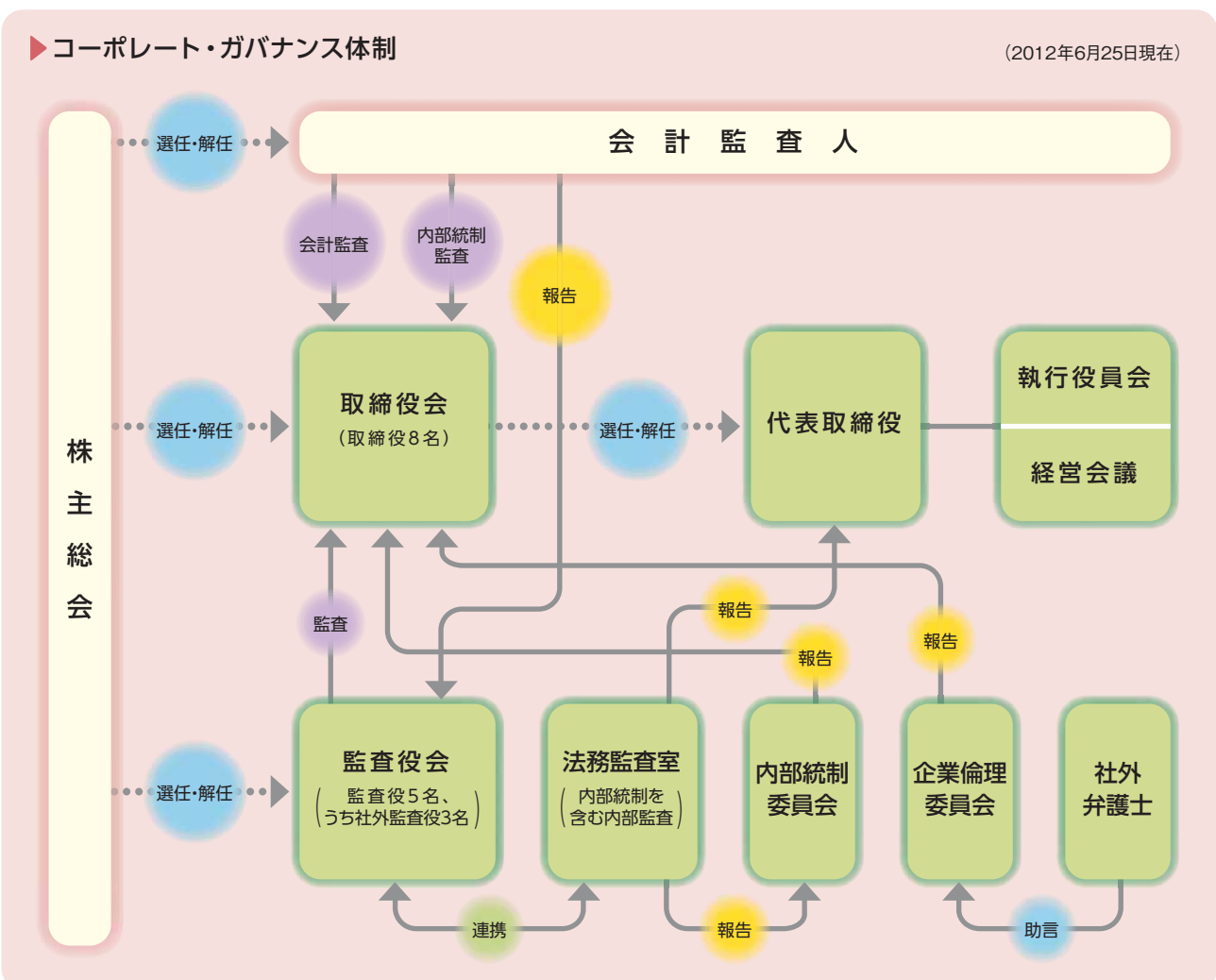
● コーポレート・ガバナンス体制

当社は、コーポレート・ガバナンスを経営の最重要課題のひとつと認識しており、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人などの法律上の機能に加え、様々な内部統制の仕組みを整備するとともに、すべてのステークホルダーの方々にタイムリーな情報提供を行うことで透明性の高い経営を目指しています。

当社は、監査役制度を採用しており、社外監査役3名を含む5名の監査役が取締役の職務執行ならびに当社および国内外子会社の業務や財務状況について監査を実施しています。さらに内部監査部門である法務監査室が、順

法のみならず管理や業務手続の妥当性まで含め、継続的な実地監査を実施しています。

当社の取締役会は、法令で定められた事項のほか、経営方針や事業計画、投資計画など経営に関わる重要事項を意思決定する機関と位置づけており、原則として毎月1回開催しています。また、執行役員会や経営会議等の会議体を設け、個別事項の審議の充実を図るとともに、取締役会の決定した方針に基づく業務執行に対する監督、指導、助言に努めています。



● 内部統制委員会

2008年4月から、金融商品取引法財務報告に係る内部統制評価報告制度に適切に対応するため、「内部統制委員会」を設置しています。主要な4つの統制プロセスの主

管統制委員が維持管理と自己点検を行い、別途法務監査室による内部監査評価とあわせて財務報告の信頼性の維持・向上を図っています。

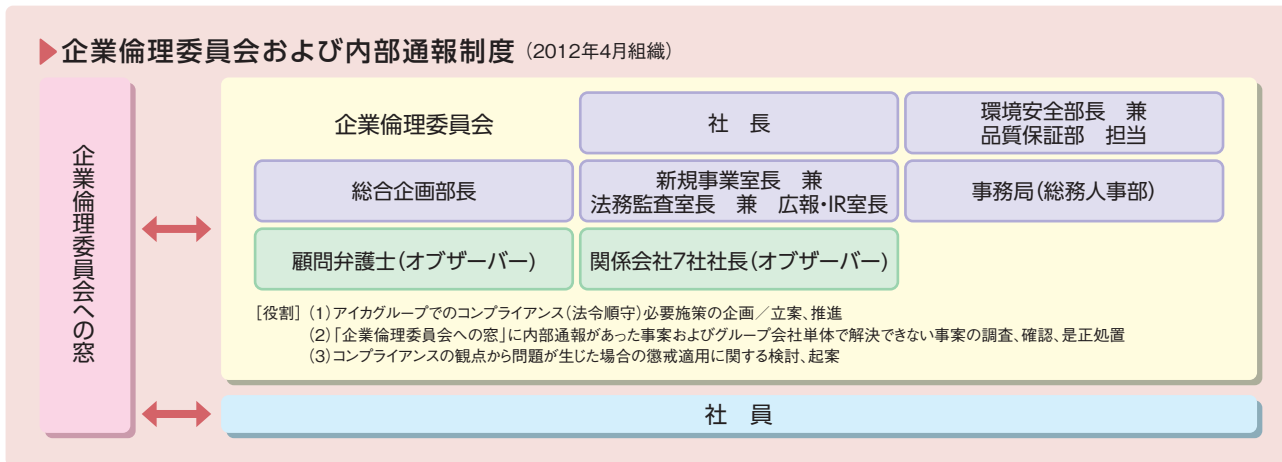
コーポレート・ガバナンス

● 企業倫理委員会

法令を順守しつつ企業活動を行うことは企業が持続・発展をしていく上で基本となるものです。企業倫理委員会は、コンプライアンス徹底のため、必要施策の企画・立案、及び同施策の推進を目的として2002年11月に設置されました。

また、コンプライアンスの観点から問題が生じた場合、これを早期に発見して芽の小さいうちに摘み取るため、社員から「企業倫理委員会への窓」への電話もしくは電子メールによる通報を受け付けています。

▶ 企業倫理委員会および内部通報制度 (2012年4月組織)



● 行動指針

法令を順守し、全社をあげて社会的良識に従った健全な企業活動を推進するため、「アイカグループ社員の行動指針」を策定し、アイカ工業はもとより国内グループの全社員に行動指針カードを配布しています。

● アイカグループの行動指針カード

- 1 会社との関係における行動指針**
 - (1) 明るい職場づくり
 - (2) 会社資産の取扱い
 - (3) アイカグループへの責任・誇り
- 2 企業活動における行動指針**
 - (1) 事業理念の実現
 - (2) 自己能力の啓発と未来志向(挑戦と創造)
 - (3) オープンで公平・公正な競争と取引
 - (4) チームワークの尊重
 - (5) ローカルかつグローバルな行動指向
 - (6) 良識を持った品格のある行動
- 3 社会との調和における行動指針**
 - (1) 健全かつ透明な関係の維持
 - (2) 積極的な社会参加
- 4 私的行為における行動指針**
 - (1) 誠実・堅実・健全な家庭生活
 - (2) 節度ある生活姿勢、違法・反社会的行動の厳禁

● コンプライアンス

当社では、社員のコンプライアンス意識の向上のため、年に一回「アイカグループ社員の行動指針」に基づいた資料を活用し職場単位の研修を行っています。この研修では、「行動指針」の位置づけ、コンプライアンスの意味と必要性について意識付けを徹底します。

さらに、法務監査室が営業店所、工場、グループ各社を巡回しコンプライアンス研修を実施し、併せてコンプライアンスの重要性を指導しています。ここで発見された課題は全社的な改善活動へ展開されます。

● 外部の評価制度

(SRI ファンド評価用アンケートの活用)

これまでの環境保全活動等についての外部機関からのアンケートへの対応に加え、(株)日本総合研究所主催で企業の社会的責任も重視した「わが国企業のCSR経営の動向調査」へも回答し、得られる評価結果を活かすことにより、当社の取り組みが不十分な項目の把握、改善に努めています。

2011年度調査の結果、2010年度に引き続き当社は「社会的責任経営の取り組みの進んだ企業」として選定され、金融機関等への情報提供が行われました。

従業員との関わり

労働安全

● 労働災害の防止

2006年1月17日に碓目寺工場で発生した重大災害を風化させないため、毎年1月17日をアイカグループの安全の日と定めています。2012年1月17日には昨年同様各職場で安全朝礼等を行うとともに、第6回アイカグループ安全衛生大会を開催しゼロ災の誓いを新たにしました。

また、活動単位で、KYT[※]やヒヤリハット活動[※]、危険源改善活動を進め、要所で指差呼称を実施する指導、及び表に示した各種安全教育を継続した結果、昨年度には休業労災は発生することなく、度数率、強度率は0と算出されました。地道な活動により効果をあげていますが、軽微な程度の不休業労災は以前と同程度に発生しており、災害の芽はまだ潜んでいるといえます。

リスクアセスメントでの危険源抽出方法の見直しによる潜在的なリスクの把握及びその改善を全サイトで展開するよう、注力して安全活動を進めています。

※用語解説

※ **KYT**:危険(K)予知(Y)訓練(T)の頭文字をとった略語。作業場面を取り上げ、どんな危険が潜んでいるか、どんな対策を打つべきかを検討して安全意識を高める手法の1つ。

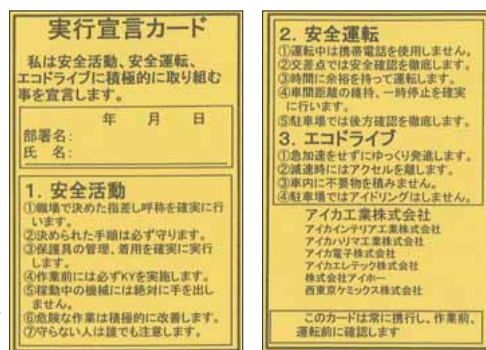
※ **ヒヤリハット活動**:実際の作業で怪我には至らなかったが、ヒヤリとした/ハットした出来事を取り上げ、その改善を行う活動。



●安全の日 追悼式



●アイカグループ安全衛生大会



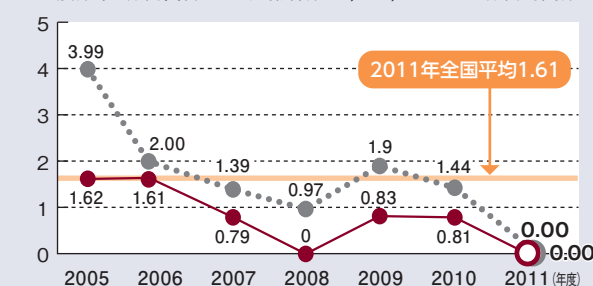
●実行宣言カード

▶ 2011年度労働安全衛生教育実施状況

教育名	対象	受講人数
社内研修		
新規採用者安全衛生教育	新規採用者	30名
3年次研修	入社3年次社員	7名
2年次研修	入社2年次社員	3名
派遣社員安全教育	派遣・工程請負者	5名
新任職長教育	関係会社の職長、班長含む	1名
安全衛生推進者教育	管理職	0名
リスクアセスメント実務者研修	新リスクアセスメント推進者	51名
安全衛生ビデオ研修	全従業員(関係会社、請負含む)	3,277名
防毒マスク講習	本社工場、碓目寺工場/R&Dの作業者	0名
環境法令講義		
工事業者安全教育	出入り工事業者	45社60名
社外研修		
RST講座教育	管理職	0名
安全衛生推進者教育		
危険予知訓練トレーナー研修		1名
フォークリフトインストラクター研修	中堅職、管理職	2名
リスクアセスメント推進者研修		5名
安全体感教育	一般職、中堅職、管理職	33名

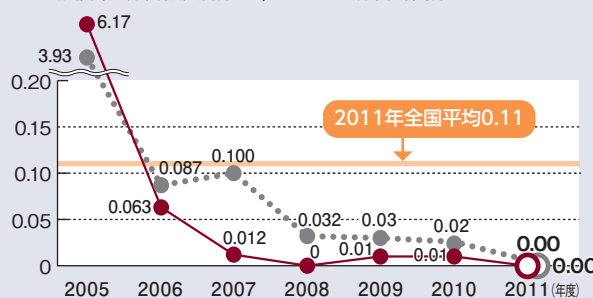
▶ 度数率推移(アイカ工業、アイカグループ)

※度数率=労働災害による死傷者数×1,000,000÷延べ労働時間数



▶ 強度率推移(アイカ工業、アイカグループ)

※強度率=労働損失日数×1,000÷延べ労働時間数



- アイカ工業 (対象範囲: 本社・本社工場、碓目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場)
- アイカグループ (対象範囲: 上記5サイトにアイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)を加えたもの)

従業員の声 2年次研修における労災研修(受講者の指差し呼称 確認掛け声)



● 楠井 智久
 化成品Co.生産統括部
 甚目寺工場生産課第二係第二班
 『ストックタンク
 コックよいか? ヨシ!』

● 瓜生 英貴
 建装材Co.生産統括部
 本社工場生産第一課
 第一係第一含浸班

『樹脂調合時
 保護具着用よいか? 着用ヨシ!!』

● 大成 恭平
 化成品Co.生産統括部
 広島工場生産課第一係第二班

『モノマーセットよいか!?
 セットヨシ!』

● 斑目 稔
 化成品Co.生産統括部
 福島工場生産課第一係

『ストッパーよいか!?
 ストッパー確認ヨシ!!』

● 吉見 新
 化成品カンパニー技術部
 Ac・CLチーム(丹波)

『モノマー槽の弁閉め
 ヨシ!!』

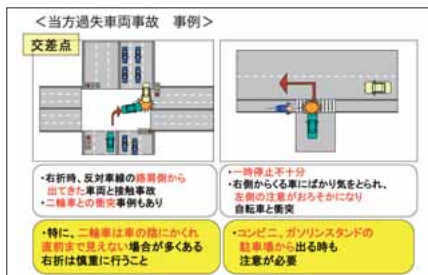
● 交通災害の防止

2011年度の車両事故発生件数(当方、双方過失)は39件であり、近年において最多の件数の事故が発生してしまいました。

車両事故対策としては、従来から①安全運転講習会、②事故発生者に対する安全講習の受講、③「交通事故撲滅強

化月間」と称した全社キャンペーン、④運転者の安全運転に対する意識をより高めるため営業支店で自ら対策を考え実行する「車両事故撲滅対策実施報告書」を実施しています。

事故発生の多発パターンを解説し、教育を徹底することで事故撲滅に努めます。



●交通安全教育資料

▶車両事故件数の推移

対象範囲：アイカ工業(株)(営業店所を含む)の当方、双方過失事故



● 作業環境の改善

有機溶剤、特定化学物質、鉱物性粉じんを使用する屋内作業場、およびダイオキシンを含有するばいじん・焼却灰を取り扱う廃棄物焼却施設では、作業環境測定を年2回実施しています。年々法令基準値は厳しくなっておりますが、

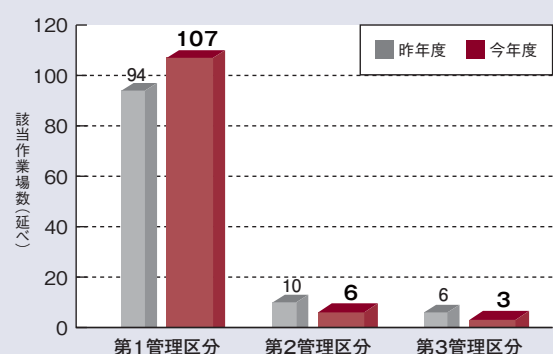
全社を挙げて作業環境改善活動に取り組み、作業環境を改善することに注力しております。今後もより一層の作業環境改善活動に努めてまいります。

▶作業環境測定結果(2011年度)

	該当作業場数(延べ)	第1管理区分	第2管理区分	第3管理区分
本社工場	6	5	0	1
甚目寺工場	31	26	5	0
福島工場	26	25	1	0
広島工場	20	19	0	1
茨城工場	3	3	0	0
国内関係会社*	30	29	0	1
合計	116	107	6	3

第1管理区分：作業環境管理が適切であると判断される状態
 第2管理区分：作業環境管理に改善の余地があると判断される状態
 第3管理区分：作業環境管理が適切でないと判断される状態
 ※アイカンテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンゾ化成(株)
 なお今年度より茨城工場での生産再開に伴い3作業場で新たに測定を実施し、いずれも第1管理区分となりました。またグループ会社全体を通して作業環境改善策を実施した結果、第2、第3管理区分が減少し、第1管理区分へと改善されております。

▶作業環境測定結果



従業員との関わり

安全衛生

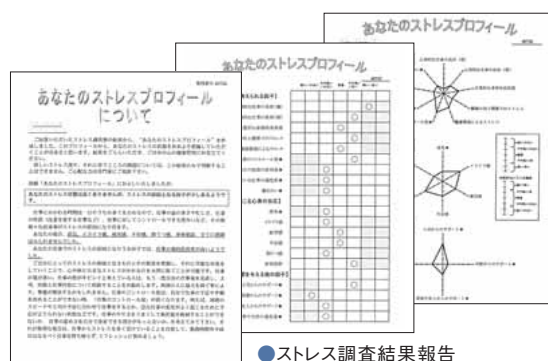
●メンタルヘルス

厳しい市場競争の激化や急速な変化を伴う経済環境のもと、労働者の受けるストレスはますます拡大する傾向にあります。このような中で、長期間にわたる疲労の蓄積による心や身体の健康障害等に対する対策の充実強化が課題となっています。

当社もこのメンタルヘルス（心の健康）及び身体の健康への対策強化に努めており、

- ① 心・身体の健康相談カードの作成、配布
- ② 社内イントラネットによる心・身体の健康相談窓口の周知
- ③ アイカ工業全社員を対象にストレス調査を実施

- ④ 「こころの健康管理」管理監督者向けガイドブックを作成・配付
- ⑤ ストレス調査結果に基づく職場改善活動の実施等を実施しています。



健康診断

国が健康保険法を改正したことで、厚生労働省は、2008年度からメタボリック・シンドロームの予防・改善を目的とする新しい健診制度を導入する計画を打ち出し、健康保険組合にメタボ対策を義務付けました。当社では、喫煙習慣の有無を含む既往歴の調査や身長、体重、BMI、

肝機能検査などに、腹囲測定を加えた定期健康診断を実施しています。そして、メタボリック・シンドロームやその予備軍の人に対し、産業医などの面接指導等により食事や運動の指導を実施していきます。

雇用

●再雇用制度

65歳までの継続的な雇用機会の提供を義務付ける改正高齢法*が2006年4月1日から施行されました。当社はこれに先駆け、子会社を通じて再雇用制度を実施してきました。

少子・高齢化の進行を背景にした社会的要請の高まりや、厚生年金をはじめとした社会保障制度の動向、厳しさが続く雇用情勢、社員の高い勤労意欲などを総合的に検討し、60歳代前半層の方々に、意欲と能力に応じて可能な限り現役で活躍していただくことのできる制度です。

契約は1年単位で行い、本人が希望するとともに当社が働いて頂きたい場合は65才の誕生日まで継続して雇用する内容となっています。

▶再雇用制度の新規雇用者数推移

2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
10名	13名	20名	15名	9名	12名	10名

●障がい者雇用

2012年4月現在、当社の障がい者雇用率は1.6%（法定雇用率は1.8%）です。

アイカ工業では障がい者の雇用拡大を目指したプロジェクトを設置し、就業可能な業務の洗い出しや就業の定着等を行っています。そして、2012年中に法定雇用率を満足するように障がい者就職面接会への参加等の施策を行っています。

*用語解説

※改正高齢法：改正高齢者雇用安定法のこと。2006年4月1日から、高齢者について少なくとも年金支給開始年齢（男性の年金（定額部分）の支給開始年齢に合わせ男女同一の年齢）までの高齢者雇用確保措置の導入が各企業に義務づけられた。

サプライチェーン上の関わり

● 製品の安全情報の提供

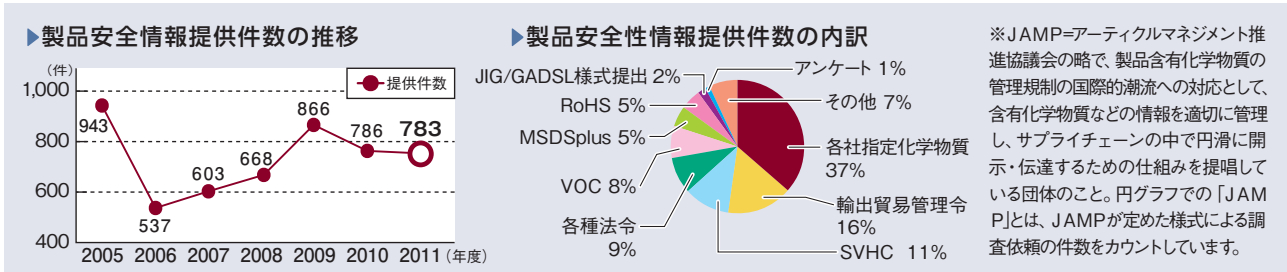
改正建築基準法の施行、学校環境衛生の基準の改正、SAICM[※])に端を発する各国化学物質規制(RoHS指令、ELV指令、REACH規制)、お客様のグリーン購入の推進等により製品の化学物質に関する意識が高まっています。当社は化学物質を原材料として使用しており、特に接着剤、塗材、建築材、電子材料等がこれらの規制に密接に関わっています。

2011年度に783件の情報を提供しました。2010年度とほぼ同数の新規依頼を受けて、各社が定める使用禁止物質や管理物質等に関する環境負荷物質調査が290件(占有

率37%)と1/3強を占めていました。化成品の輸出増加に伴う輸出貿易管理令該非判定書の発行や、REACH規制の第7次高懸念物質が確定するなど、それら物質の含有調査報告書の発行はそれぞれ122件(占有率16%)、86件(占有率11%)と増加傾向にあります。

このように化学物質に関する調査および情報提供は今後ますます重要度を増すと考えられ、迅速でより正確な情報提供に努めます。

※用語解説 ※SAICM：国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチの略名。2002年のヨハネスブルグサミット(WSSD)で定められた実施計画において、2020年までに化学物質の製造と使用による人の健康と環境への悪影響の最小化を目指すこととされ、そのための行動の一つがSAICMとして取りまとめられた。



● お客様センターの対応

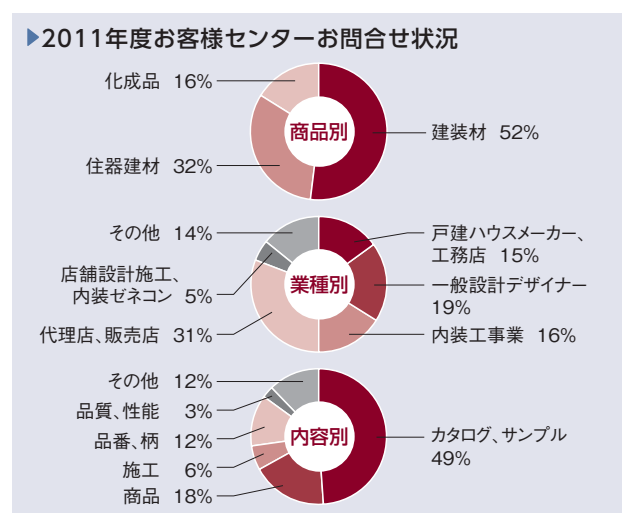
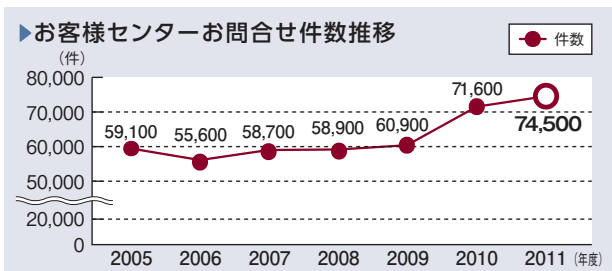
アイカグループは主に建築関連の製品を製造販売しており、その製品アイテムも多いためお客様に対してきめ細かい対応が必要です。このため、お客様センターでは次の3つの窓口で対応しています。

3つの窓口	対応内容
「アイカカタログセンター」	カタログやサンプルの請求、問合せ窓口
「アイカ塗板センター」	内・外装仕上塗材ジョリパットの塗板見本の請求、問合せ窓口
「アイカコールセンター」	その他の問合せ総合窓口

お客様の要求や質問に、迅速・正確・丁寧にお答えできるよう幅広い知識と豊富な経験を備えたスタッフを窓口配置しています。

お客様/問合せ内容
設計、工務会社、建築会社、デベロッパー、住宅会社、リフォーム会社、販売会社などの方
営業、商品、施工、環境、認定書、苦情など多岐に渡る

2011年度は東日本大震災の影響を受けて低調なスタートを切り、後半は緩やかな回復基調になる年でしたが、年間を通しての問い合わせ件数は74,500件にのぼり、前年度と比較して、3,000件程度増加しています。一方、昨年7月にリニューアルしたホームページでの改良があり、品質性能及び保証書等各種資料の要望が増加しています。



環境経営
社会性報告
環境報告
第三者意見

サプライチェーン上の関わり

● 現代建築セミナー

1983年より国内外の著名な建築家を講師に迎え、全国各地で住宅・環境・都市問題など幅広い分野にわたって、講演していただく「アイカ現代建築セミナー」を開催しています。

本セミナーは建築家、学生及び一般の方々まで幅広くご参加いただいております、今回講師として今や世界中から注目されておられます、建築家の妹島和世氏に東京にて、西沢立衛氏に大阪にてご登壇いただきました。



● 第58回アイカ現代建築セミナー

● ポスター

2012年

開催地	開催日	講師	所属	講演テーマ	聴講者数
大阪	7月5日	西沢立衛	SANAA・西沢立衛建築設計事務所	近作について	851名
東京	7月13日	妹島和世	SANAA・妹島和世建築設計事務所	環境と建築	709名

● アイカデザインセミナー

アイカ新商品発表会同時開催で、国内外で活躍する建築家・デザイナーを講師としてお招きし、アイカデザインセミナーを開催しています。講演会が開催される機会の少ない地方都市での開催は非常に好評を得ております。



▶ アイカデザインセミナー開催状況

● アイカ新商品商談会 2012開催

2011年

開催地	開催日	講師	所属	講演テーマ	聴講者数
福岡	5月12日	青木茂	株式会社青木茂建築工房	リファイニング建築を語る	138名
広島	5月19日	伊東豊雄	伊東豊雄建築設計事務所	これからの建築を考える	516名
札幌	5月26日	五十嵐淳	五十嵐淳建築設計	ローカルな必然性	235名

2012年

開催地	開催日	講師	所属	会場名	聴講者数
仙台	4月19日	手塚由比	株式会社手塚建築研究所	懐かしい未来	175名
札幌	4月26日	東利恵	東環境・建築研究所	空間の非日常性	181名
福岡	5月17日	間宮吉彦	株式会社Infix	場の形成	88名
広島	5月23日	北山恒	有限会社architecture WORKSHOP	人間の関係性をつくる空間	320名

株主との関わり

● 会社の経営の基本方針

アイカグループは共生の理念のもと、たえず革新により新しい価値を創造し、社会に貢献して「真にお客様に選ばれる企業集団—グッドカンパニー—」を目指しています。

また、グループ全体の企業価値の増大が株主の利益にもつながると認識し、経営体質の継続的な強化のため「スピード・効率・変革」をスローガンに活動しています。

● 情報開示(ディスクロージャー)

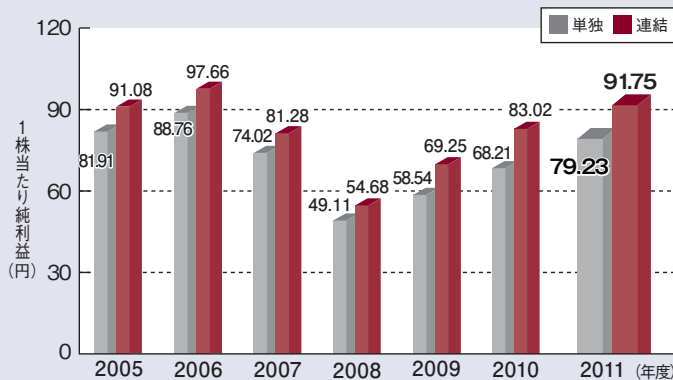
当社のホームページに参考情報を掲載しています。



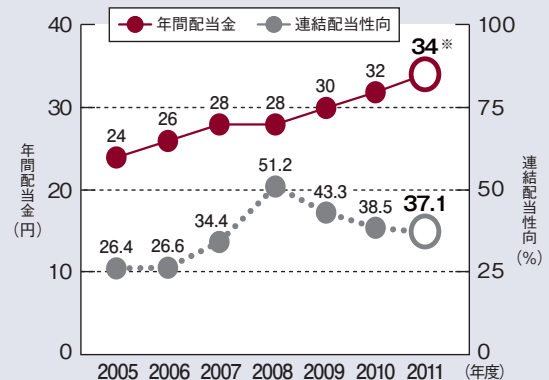
ホーム ▶ 会社概要 ▶ IR情報

<http://www.aica.co.jp/company/ir/>

▶ 1株当たりの当期純利益の推移(単独 連結)



▶ 1株当たりの年間配当金の推移と連結配当性向



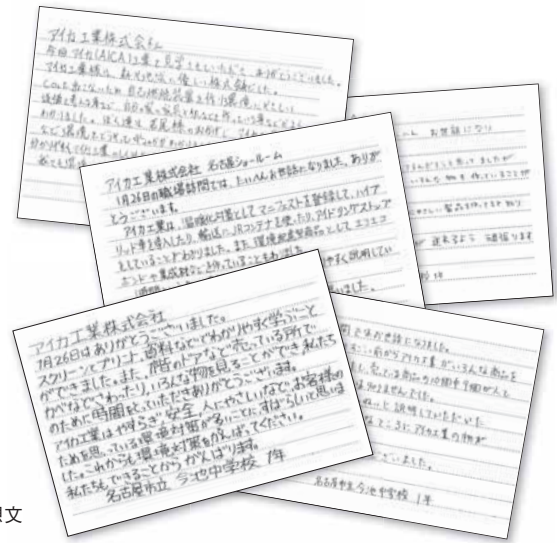
※記念配当2円を含む

社会との関わり

● 環境教育の実施

毎年甚目寺工場の近隣のあま市立甚目寺南小学校から、3年生の教育として工場見学を依頼されています。一般顧客用の資料を小学生向けに分かり易く編集し直して、お話をあと工場を見学いただいています。(実施日:2011年11月18日)

また、名古屋市立今池中学校の1年生5名に名古屋支店へお越しいただき、ショールーム「スペースφ」にて商品を前にしてアイカグループの環境保全に対する取り組みを説明しました。(実施日:2012年1月26日)



● 中学生感想文



● 塗り壁材工場にて



● 甚目寺工場見学

● インターンシップ生の受け入れ

2003年より、就職活動を控えた大学3年生および大学院1年生を対象に、インターンシップ生の受入を毎年行っています。9度目となる2011年度は、15名の学生を受け入れました。

その内容は、営業職社員に同行するものから、ビジネスマナー研修、工場研修体感、また、ホームページコンテンツ制作まで幅広い構成になっています。

大学生活では得られない経験や学び、気づきが多く得られると、参加学生の満足度も毎年高いものとなっていて、2012年4月には4名のインターンシップ生が入社しております。

企業(製造業)が取り組む「環境活動」とは?

- ・環境安全部からの資料提示
- ・会社もしくは社員が実行可能な活動とは?(あるべき姿)↓

1) 近隣清掃

・資源保全

・境汚染情報理解のための技術)

アイカの環境経営

～2011インターンシップ生とのコミュニケーション～

2011年9月5日

● インターンシップ生との環境コミュニケーション資料

● 「企業の森づくり」保全活動

当社製品の原材料には多くの紙や木材を使用していることもあり、生物多様性に配慮した環境保全および社会貢献活動の一環として森林整備を身近で実施したいと、愛知県と「企業の森づくり」協定を2008年に締結しました。3年の活動を経過した2011年5月には同一の内容で契約を延長し、引き続き3年間県有林の整備を行うこととしています。

その活動は、愛知県県有林(小牧市)3haを活動範囲に社員及びOBの方がボランティアで森林整備を行うものです。2011年度は6回の環境保全活動を実施し、森林環境調査(簡便な植生調査、照度調査)環境美化活動(ゴミ拾い等の環境美化活動)、人工林整備(下草刈りや雑木類、枯損木等の除伐等)の活動を行いました。

活動日	参加者数	活動内容
第1回 6月 4日(土)	11名	作業箇所確認、下草刈り、除伐
第2回 7月23日(土)	16名	環境美化、下草刈り、除伐
第3回 9月10日(土)	14名	下草刈り、除伐
第4回 11月26日(土)	16名	植生調査、除伐、下草刈り
第5回 2月18日(土)	9名	
第6回 3月 3日(土)	12名	下草刈り、除伐



● 社内公募案内



● 3月3日参加メンバーの集合写真



● 雑木等を除伐している様子

環境目標と推進状況

温室効果ガスの排出削減目標は、東日本大震災後の電力供給不安による節電活動を推進させたこともあり、目標を達成していますが、産業廃棄物の発生量削減は生産量増加要因が削減効果を上回り、目標を達成することができませんでした。その他の目標に関しては概ね目標を達成しております。

	目標項目	対象	2010年度実績	2011年度目標
地球温暖化防止	温室効果ガス排出量の削減	単独	15,905t-CO ₂	16,580t-CO ₂ 以下(店所含む)
		連結	32,334t-CO ₂	32,770t-CO ₂ 以下(店所含む)
	輸送トンキロの削減	—	8,012万トンキロ	7,932万トンキロ以下
産業廃棄物の削減	産業廃棄物発生量の削減	単独	4,053t	4,098t以下
		連結	9,183t	8,670t以下
	埋立処分率の低減	単独	3.4%	2.0%以下
		連結	1.7%	1.0%以下
環境負荷物質の削減	PRTR排出・移動量の低減	単独	61t	2010年度実績量の2%削減
		連結	94t	
環境配慮型商品	環境配慮型商品の拡販	—	売上占有率：90.1%	90%以上
グリーン購入	原材料のグリーン購入	※	グリーン購入率：81.4%	グリーン購入の維持管理
地域社会への貢献	工場周辺の清掃活動		延べ71回	各サイト1回以上/月
マネジメントシステムの構築・強化	マネジメントシステムの管理強化	連結	環境、労安マネジメントシステムの進化	海外サイトの環境/労安マネジメントシステムの発展
情報開示	社会環境報告書の発行	—	年1回発行	年1回発行
	環境会計の実施	連結	年1回公表	年1回公表



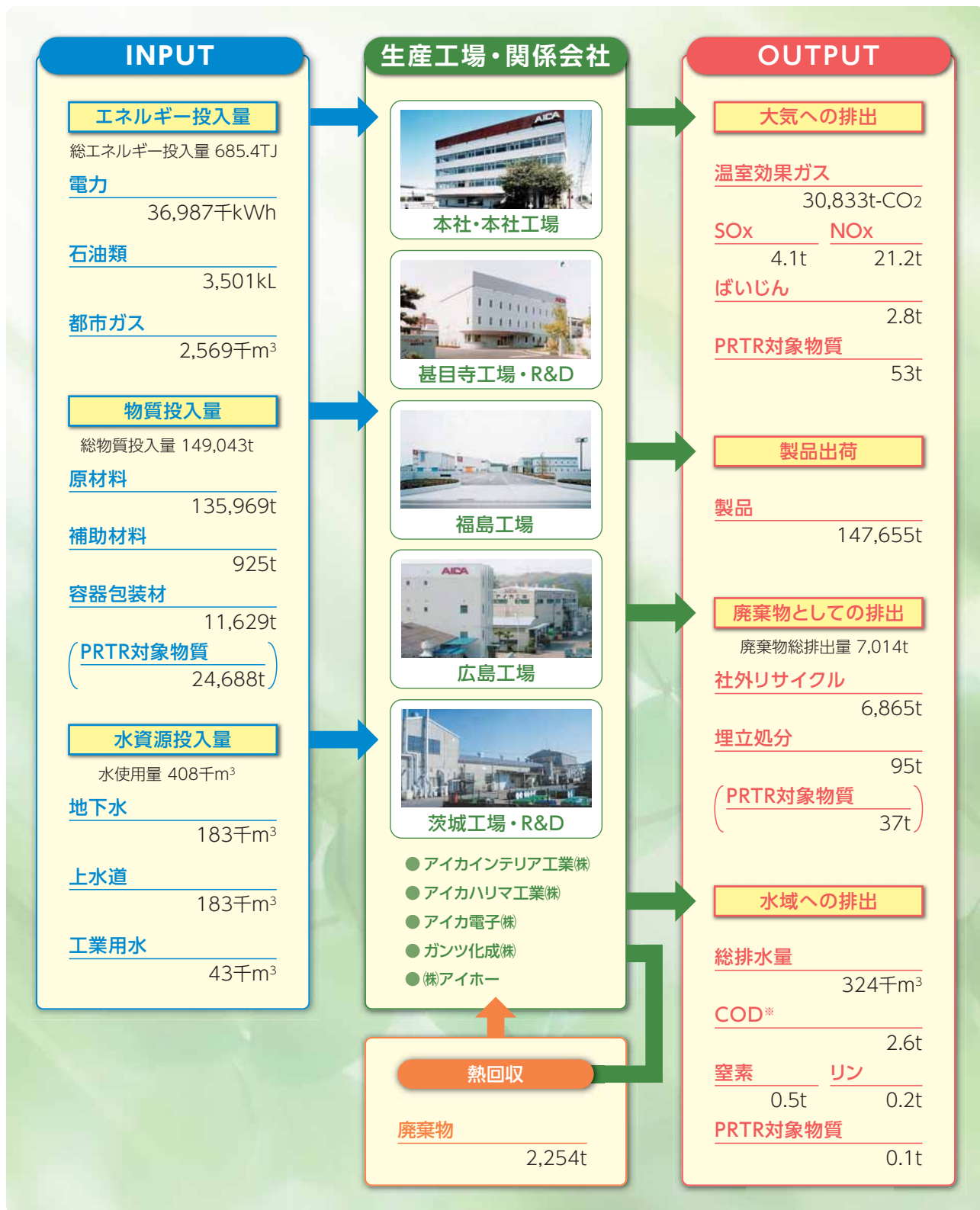
その技術を、地球に還したい。

対象範囲 単独：アイカ工業(株)の本社・本社工場(アイホー含む)、碓目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場
 連結：上記5サイトにアイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)を加えたもの
 ※原材料のグリーン購入、工場周辺の清掃活動は単独にアイカ電子(株)を加えたもの

2011年度実績	評価	主な活動状況	掲載頁	2012年度目標	2014年度目標
15,774t-CO ₂	○	ピークカットなどの節電、 生産状況に合わせた 省エネ改善	P27	20,558t-CO ₂ (店所含む)	売上原単位 前年比1%ダウン
32,385t-CO ₂	○	乾燥炉脱臭設備での 熱回収		31,928t-CO ₂ (店所含む)	
8,422万トンキロ	×	JRコンテナ、 船舶輸送の拡大	P28	8,330万トンキロ以下	前年比1%ダウン
4,594t	×	工程内不良削減による 廃棄物の削減	P29	6,118t以下	売上原単位 前年比1%ダウン
9,360t	×			9,216t以下	
2.0%	○	リサイクルの推進、 有価物への転換	P30	2.0%以下	1.0%以下
1.0%	○			1.0%以下	0.5%以下
51t	○	VOC物質の代替検討	P29	2010年度 実績量の3%削減	2010年度 実績量の5%削減
91t	○	代替溶媒の検討、 排ガス燃焼装置の設置			
売上占有率：90.4%	○	VOCを含まない 商品の拡販	P32	グリーンアシスト商品の 売上占有率：期末20%	グリーンアシスト商品の 売上占有率：期末30%
グリーン購入率：87.8%	○	原材料グリーン購入の 対象物拡大に伴う再調査	P31	グリーン購入の 基準見直し	—
延べ76回	○	工場周辺の清掃活動	—	各サイト1回以上/月	各サイト1回以上/月
環境、労安マネジメント システムの発展	○	関係会社に対する 順法監査強化	P10	海外サイトの環境/労安マネ ジメントシステムの発展	各マネジメント活動の レベルアップ
年1回発行	○	アイカグループ統合での 活動充実	—	年1回発行	年1回発行
		第三者意見への対応	P35		
年1回公表	○		P26	年1回公表	年1回公表

2011年度マテリアルバランス

対象範囲：本社・本社工場、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)、(株)アイホー
2010年度と比較すると、概ねインプット量とアウトプット量のともに同様な推移となっています。



*用語解説

※COD：Chemical Oxygen Demandの略。湖沼、海域の有機汚濁を測る指標。

環境会計

● 環境会計の目的

環境会計には2つの目的があると考えています。一つの目的は、社内に対して環境保全活動に費やしたコストや環境対策の効果を定量的に把握し、最小のコストで最大の効果を上げるための管理ツールとして活用することです。

もう一つの目的としては、社外に対してアイカ工業の環境への取り組みを積極的に公表・開示することで、「環境に

2012年10月公表の「環境会計」P26に、修正点がありました。
修正版は項目ごとの閲覧PDF「環境会計(改)」をご参照をお願いいたします。

優しい企業」として社会から信頼される企業になるためのコミュニケーションツールとして活用していくことです。

アイカ工業では上記考え方に基づき環境省から1999年3月において「環境保全コストの把握及び公表に関するガイドライン」が公表されたのを契機に、環境会計を1999年度下半期分より公表しています。

▶ 環境保全コスト

(金額単位：百万円)

分類	主な取り組みの内容	投資額			費用額		
		前期	当期	対前期	前期	当期	対前期
(1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		106	147	139%	524	565	108%
内訳	①公害防止コスト	41	38	93%	155	133	86%
	②地球環境保全コスト	63	105	167%	118	149	126%
	③資源循環コスト	2	4	200%	251	283	113%
(2) 生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)	グリーン購入推進	0	0	-	16	17	106%
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	・社会環境報告書2011の作成 ・製品の安全性に関する調査・資料作成活動 ・各工場サイトでの環境に関する会議体の開催 ・マスコミへの情報開示活動	1	1	100%	122	122	100%
(4) 研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	・無溶剤型接着剤・コート剤(接着剤への配合、使用時に溶剤を使用しない)の開発 ・生産時に使用するエネルギーや廃棄物量を低下させる生産方法の開発	60	58	97%	316	492	156%
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	愛知県企業の森づくり事業 活動費	0	0	-	0	0	-
(6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)	汚染負荷量賦課金の納付	0	0	-	3	3	100%
(7) その他のコスト		1	0	-	1	1	100%
環境保全コスト合計		168	206	123%	982	1,200	122%

▶ 環境保全効果

効果の内容	環境負荷	前期	当期	対前期
		前期	当期	対前期
(1) 事業エリア内で生じる環境保全効果(事業エリア内効果)	廃棄物発生量	9,273t	9,361t	101%
	廃棄物立処分量	149t	95t	64%
	CO2排出量	32,334t-CO2	32,385t-CO2	100%
	環境汚染物質の排出・移動量	94t	91t	97%
(2) 上・下流で生じる環境保全効果(上・下流効果)	グリーン購入率(原材料)	81%	88%	109%
	(照明器具)	100%	100%	100%
	(蛍光管)	100%	100%	100%
	(OA機器)	100%	100%	100%
(車両)	100%	100%	100%	
(3) その他の環境保全効果				

▶ 環境保全対策に伴う経済効果

(金額単位：百万円)

効果の内容	金額		
	前期	当期	対前期
熱回収によるエネルギー削減効果	197	237	120%
リサイクルによる効果	23	28	122%
物流効率化による効果	71	74	104%
経済効果合計	291	339	116%

▶ 集計上の基本的な考え方

- 対象期間 2011年4月1日～2012年3月31日
- 集計対象範囲 アイカ工業に以下の関係会社を含め集計しました。
アイカンテリア工業株式会社、アイカハリマ工業株式会社、アイカ電子株式会社、ガンツ化成株式会社、株式会社アイホー
- 環境保全コストの算定基準
設備投資 年度内の環境保全に関わる設備投資額を集計。翌年度にまたがる場合は当期分のみを集計しております。
- 費用
 - ・人件費 部門毎に環境保全活動の時間に時間あたりの年間平均金額を乗じて計算しています。
 - ・減価償却費 1997年4月1日以降に取得した環境保全活動に関わる設備を対象としています。償却費の計算は財務会計の減価償却の方法と同一です。
 - ・その他費用 環境省のガイドライン2005年度版に準拠した分類により集計しています。

地球温暖化防止

● 温室効果ガスの排出削減(省エネルギー)

地球環境を保全する上で現在の最重要課題は地球温暖化防止とされています。日本では東日本大震災が発生した後、原子力発電所の相次ぐ停止のために火力発電由来の電力が増加し、地球温暖化が進む方向になっています。今こそできる限りの温室効果ガスの排出抑制を行う必要があります。

2011年度は政府・電力会社の節電要請を受けて、全国のサイトでは使用ピーク時間での節電対策を実施し、東京支店では人員配置の移動により、1フロアの使用を控えるなどして、前年比20%の温室効果ガス削減を実現しました。

関係会社のガンツ化成では、燃料源を灯油から液化天然ガスに変更し、年間約800t-CO₂の削減を見込んでいます。その他大きな投資案件はありませんでしたが、生産変動に対応したエネルギー使用での原単位管理を強化し、現場の細かな改善、省エネ活動を強化しました。本社工場では使用エネルギーに対する生産量を高める目標を掲げる、また工程間での蒸気使用タイミングをずらすことで蒸気の取り合い効率の悪化を防ぐなど、生産現場が主体となったエネルギー削減活動を行っています。

その結果、国内生産拠点の温室効果ガス排出量は連結1億円売上に対して32.4t-CO₂/億円で前年度の34.5と比べて6.1%低減しました。

一方、海外生産拠点でも売り上げ高当りの排出量原単位を削減する目標を設定しています。テクノウッド社では補助部材の仕様を変更して乾燥作業をなくす等の方策を展開するなどして、削減方策を実施しています。

2012年度は2011年度と同様節電要請の対応を実施するものの、生産効率の視点から省エネに寄与する活動を推進します。

※用語解説 ※5ガス：CO₂以外の温室効果ガスすなわちメタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄のこと。

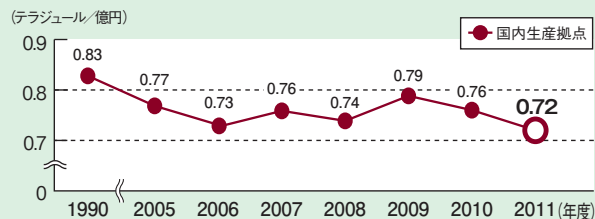
温室効果ガス排出量 (国内生産拠点)	2011年度目標	2011年度実績
	32,770t-CO ₂ 以下	30,833t-CO ₂

対象範囲：国内生産拠点：本社・本社工場(アイホー含む)、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)
海外生産拠点：アイカインドネシア社、テクノウッド社、瀋陽愛克浩博化工有限公司、昆山愛克樹脂有限公司
国内営業拠点：国内22営業店所

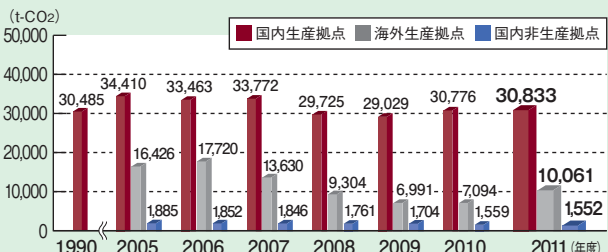
▶エネルギー投入量の推移



▶エネルギー投入量売上高原単位の推移



▶温室効果ガス排出量の推移



▶温室効果ガス排出量売上高原単位の推移



注) 愛知県「県民の生活環境の保全等に関する条例に基づく地球温暖化対策計画書作成手引き(平成15年)」の別表3「活動区分ごとの排出係数」に固定して算出しています。ただし、1990年度の購入電力のCO₂に関しては0.421 t-CO₂/kWhを使用しています。

● 2011年度の主な取り組み

- **本社工場**
現場の稼働状況に合わせた省エネ活動を推進
- **甚目寺工場**
貫流ボイラー蒸気ヘッダーバルブの開閉自動化
- **アイカインテリア工業(株)**
コンプレッサーのインバータ化による稼働台数削減。
- **アイカハリマ工業(株)**
乾燥ライン新設により稼働ラインを削減、コンプレッサーの更新。
- **ガンツ化成(株)**
燃料源をCO₂換算係数の低い液化天然ガスに変更
- **ガンツ化成(株)**
燃料転換した液化天然ガスの圧力容器



環境負荷の低減

対象範囲：国内生産拠点：本社・本社工場（アイホー含む）、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場、アイカインテリア工業（株）、アイカハリマ工業（株）、アイカ電子（株）、ガンツ化成（株）
 海外生産拠点：アイカインドネシア社、テクウッド社、瀋陽愛克浩博化工有限公司、昆山愛克樹脂有限公司

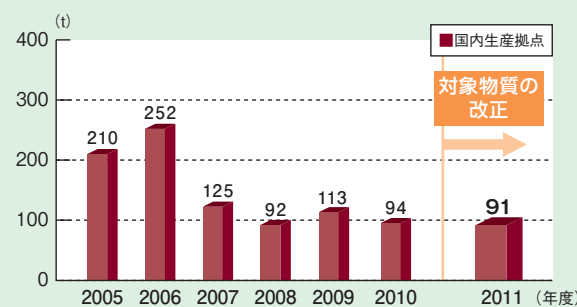
● 化学物質の管理

対象範囲：国内生産拠点

2001年4月に施行されたPRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）により、化学物質の排出量、移動量の把握・届出義務が生じました。この法律は2009年10月1日に改正施行され、指定化学物質が追加されました（第一種指定化学物質：現行354物質→改正462物質、第二種指定化学物質：現行81物質→改正100物質）。MSDSを回収し、対象物質の把握を進め、集計しました結果、アイカグループでは以下のように取扱う物質に変更が生じました。

対象から外れた化学物質分の減少、新たに該当した化学物質での増加、及び洗浄溶剤の代替などの推進による削減努力により、PRTR対象物質の排出・移動量の合計は、91トンとなり前年度実績94トンに比べて目標の2%以上削減することができました。

▶ PRTR対象物質の排出・移動量の推移



※用語解説

※**現行指定化学物質**：平成12年3月30日施行の政令で指定されている化学物質です（第1種354物質（特定第1種12物質）、第2種81物質）。
 ※**新規指定化学物質**：平成20年11月21日公布の改正政令で指定されている化学物質です（第1種462物質（特定第1種15物質）、第2種100物質）。

● 産業廃棄物の削減・リサイクル

対象範囲：国内生産拠点、海外生産拠点

産業廃棄物の削減は地球温暖化ガス削減とともに、アイカグループの重要課題のひとつであり、1998年環境理念、環境方針の策定をすると同時にその活動を開始しています。

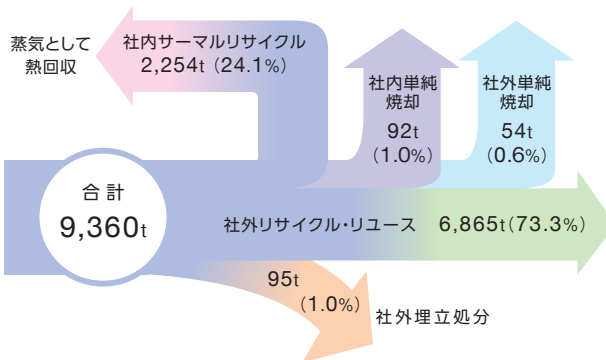
2011年度はQEOプロジェクト等を通じ、工程内不良率の削減やリサイクルの推進、有価物化への転換等の活動を行いました。

効果としては、発生した廃棄物を有価物として引き取る業者の選定を進めるなどして、埋立処分量および埋立処分率はそれぞれ94.7t、1.0%で、前年度実績の149t、1.6%を下回ることができました。

しかしながら、国内生産拠点の産業廃棄物発生量は、生産量増加要因が削減効果を上回り、目標を達成することができませんでした。

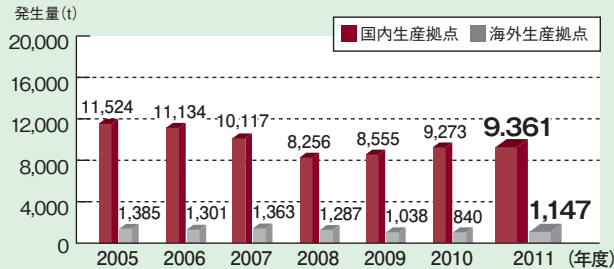
一方、産業廃棄物のリサイクル率向上のため、処理方法に関してリサイクルすることを前提に社外処理委託先を選定し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の2011年4月に改正施行で要求事項となった「産業廃棄物の処理の状況に関する確認」を行っています。

▶ 2011年度産業廃棄物処理状況（国内生産拠点）

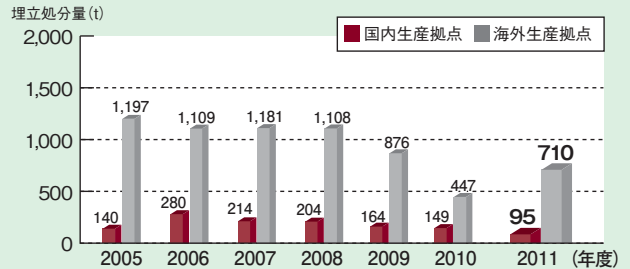


項目	2011年度目標	2011年度実績
	産業廃棄物発生量 (国内生産拠点)	8,670t以下
埋立処分率 (国内生産拠点)	1.0%以下	1.0%

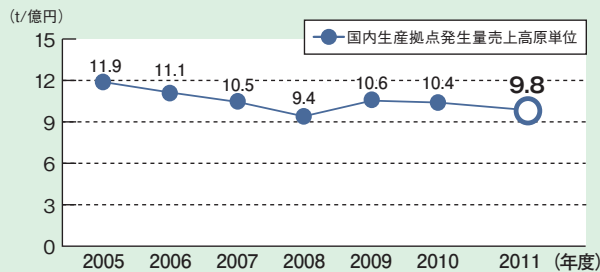
▶ 産業廃棄物発生量の推移



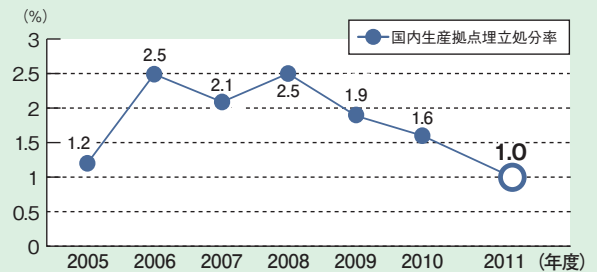
▶ 産業廃棄物埋立処分量の推移



▶ 産業廃棄物発生量売上高原単位の推移



▶ 国内生産拠点埋立処分率の推移



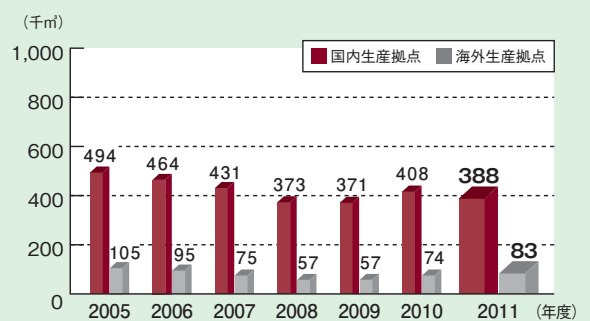
● 水使用の削減

対象範囲:国内生産拠点、海外生産拠点

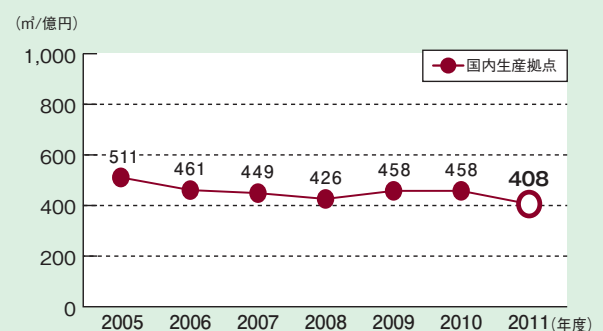
本社工場では、1979年に300t水槽を設置し、化粧板製造工程から大量に発生する冷却水(約10,000m³/日)を回収し、循環使用しています。また甚目寺工場でも、接着剤反応釜の冷却に使用した冷却水(約7,000m³/日)の回収・循環使用により、水使用を削減し、尾張地区の地盤沈下、地下水位低下の防止に努めています。

関係会社のアイカハリマ工業(株)でも化粧板製造工程から発生する冷却水を(約1,500m³/日)を回収し、循環使用をしています。

▶ 水使用量の推移



▶ 国内生産拠点の水使用量原単位の推移



環境リスク管理

対象範囲：国内生産拠点：国内生産拠点・本社・本社工場(株)アイホー含む、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)

● 土壌、地下水調査

過去に有機塩素系溶剤、有害重金属等を使用した履歴のあるアイカ工業および関係会社の工場を中心に、2001年度から自主的に土壌、地下水の汚染状況の調査を開始し、2003年度までに完了しました。その結果は表の通りです。

(注)アイカインテリア工業(株)が新規取得した工場用地から基準を超過するフッ素が検出されましたが、工場建設時に土壌改質を計画しています。

事業所、会社名	自主調査結果
本社・本社工場	環境基準適合
甚目寺工場	
広島工場	
茨城工場	環境基準適合(注)
アイカインテリア工業(株)	
アイカハリマ工業(株)	環境基準適合
アイカ電子(株)	

※なお、福島工場、ガンツ化成(株)は土壌環境基準が設定されている物質を過去および現在不使用のため調査対象から外してあります。

● グリーン購入(環境負荷物質調査)

当社では、非常に多くの原材料(約1,500種類)を使用しています。化学品ではMSDS(製品安全データシート)を入手してその原材料の法規該当状況を確認しますが、法規で通知義務のない化学物質の含有状況を把握するため、グリーン購入規定の中に環境負荷物質調査票を設け、供給先への有害性情報の提供を依頼する仕組みを構築しています。2011年度には環境ISOの規定を改訂し、規制化学物質の追加更新、化学品のMSDS PLUS[※]の提示、環境情報の積極的開示を盛り込み、新規の原材料を調達する際に、供給者に環境負荷物質調査票の提示などを要求しています。

※用語解説

※MSDS PLUS：化学品は法令で通知を義務付けられた安全性などの情報をMSDS(製品安全データシート)として使用者に伝達するが、MSDSを補完するためにより多くの化学物質含有状況を伝達する資料のこと。



●環境負荷物質調査票

● 環境法規の遵守状況等

2011年度、アイカグループでは環境関連の法令違反または協定違反等により、勧告、命令、処分等を受けるに至った事例はありませんでした。また、環境に関する訴訟はありませんでした。

● 近隣からの苦情と対応

2011年度及び2012年7月までに下記3件の苦情、問い合わせが近隣住民の方からありました。このため早急には是正対策を行い適切に対処し、1件計画立案しています。

広島工場、福島工場、茨城工場、
丹波工場(旧ガンツ化成(株))、アイカインテリア工業(株)
アイカハリマ工業(株)

ありませんでした。

	状況	対策および結果
本社工場	近隣の住民から騒音に関する苦情があった。	ボイラー横の送風機から発生していることを確認して、モーターの取替えを行いました。
アイカ電子	従業員寮の夜間駐車場利用について、騒音に関する苦情があった。	夜間の駐車場乗り入れを禁止した。(アイカ電子駐車場を使用)
甚目寺工場	工場横を通行した際に何かしらのしびきを浴びたが、有害性はないのかとの問い合わせがあった。	空冷冷却棟の水しびきであり、その安全性を確認し、説明を行った。飛散しない改修工事を次年度計画する。

環境配慮型商品

当社では環境負荷物質を削減、再生素材を利用、処理・処分が容易、リサイクルが可能、省資源・省エネルギーに寄与、ロングライフなど「人の健康と地球環境へ配慮した商品」を環境配慮型商品としています。

この環境配慮型商品の開発・生産・販売を当社は環境経営の大きな柱としてとらえ注力し、2011年度の環境配慮型商品の売上占有率は**90.4%**と前年度同様9割を超えました。

● グリーンアシスト商品

一方、環境配慮型商品は、人の健康と地球環境へ配慮した商品で、かつ環境貢献できる商品を認定する方式へ移行することで、より進んだハイレベルな環境配慮型製品「グリーンアシスト」商品として新たなスタートを開始しました。

▶ グリーンアシスト商品の摘要

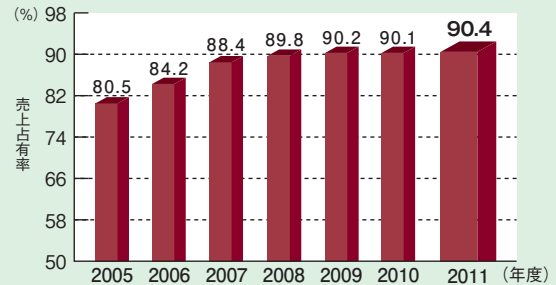
成分評価項目	貢献機能項目										
使用原材料もしくは製品が環境負荷物質の含有基準をクリア	商品の製造プロセスにおいて使用する資源が低減されたもの 商品機能面において人・室内空気環境、周辺地域・地球環境への負荷低減に寄与するもの等の項目で1以上適用できているもの 商品機能面とは、以下のような機能をもつ商品										
	<table border="0"> <tr> <td>1 解体容易設計</td> <td>6 環境負荷物質削減 (調剤のみ対象)</td> </tr> <tr> <td>2 長寿命化</td> <td>7 廃棄物削減</td> </tr> <tr> <td>3 リサイクル可能</td> <td>8 その他プラスの</td> </tr> <tr> <td>4 再生素材の使用</td> <td>環境側面を有する</td> </tr> <tr> <td>5 省資源、省エネルギー</td> <td></td> </tr> </table>	1 解体容易設計	6 環境負荷物質削減 (調剤のみ対象)	2 長寿命化	7 廃棄物削減	3 リサイクル可能	8 その他プラスの	4 再生素材の使用	環境側面を有する	5 省資源、省エネルギー	
1 解体容易設計	6 環境負荷物質削減 (調剤のみ対象)										
2 長寿命化	7 廃棄物削減										
3 リサイクル可能	8 その他プラスの										
4 再生素材の使用	環境側面を有する										
5 省資源、省エネルギー											

今年度末は売上占有率20%の到達を目指し、環境訴求ポイントを絞り込んで認定商品を拡充すること、新規商品の拡販活動を実施しています。

● LCAの活用

当社では商品を開発するにあたり、ライフサイクルアセスメント(LCA)を導入・活用しています。LCAとは、資源の採取、精製、商品の製造、物流、使用、廃棄に至るまで、その商品の一生で環境に与える影響を評価する手法です。商品開発段階からLCA手法を取り入れることで、商品製造時等のCO₂排出量等を算出することができ、カーボンフットプリントとしての利用も可能です。

▶ 環境配慮型商品の売上占有率の推移



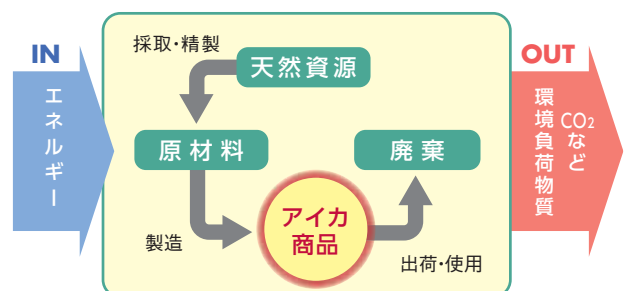
Green Assist

● グリーンアシストロゴマーク (商標申請中)

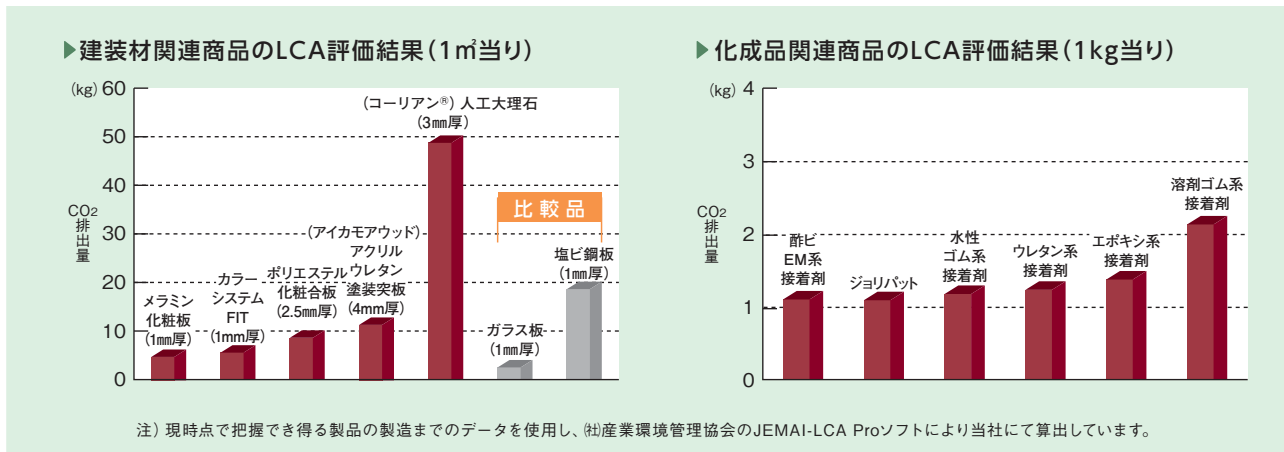
▶ グリーンアシスト商品と環境訴求項目

建築材商品	セルサス	指紋・油・汚れが目立ちにくい
	アイカフレアテクト	超薄の不燃化粧材
	耐スクラッチ	キズが付き難く、ロングライフ
化成品商品	ジョリパット	既存のJPの対汚染性を向上
	ピュール	ウレタン系塗床材で、溶剤を未使用
	多用途変成シリコーン	無可塑・無溶剤の接着剤
	水性接着剤	残存モノマー規制された水性接着剤
住器建材商品	UDコンフォート	ユニバーサルデザインされた商品
	セルサスセラール	指紋・油・汚れが目立ちにくい
	フィオレストーン	組成の98%が天然由来の石
電子基板商品	ノイズ対策基板	ノイズを防止できる回路設計であり、余分な部品を実装しなくてよい。

▶ ライフサイクルアセスメント(LCA)の概念図



● アイカ製品のLCA評価結果



当社主力商品であるメラミン化粧板は、人工大理石や塩ビ鋼板と比べてCO₂排出量が少なく、環境に優しい商品と言えます。これは原材料の半分程度が紙でできており、原材料調達段階の環境への負荷が少ないためと考えられます。また当社建材関連商品は、耐久性が高いため、そういった観点からも環境に優しい商品と言えます。

化成品関連商品については、いずれもCO₂排出量は少なく環境に優しい商品と言えますが、原材料に環境負荷の高い溶剤を使用する溶剤ゴム系接着剤は、製造時CO₂排出量が若干高くなります。

● 環境配慮型商品の紹介

塗壁材：ジョリパット
「インフィニティ∞ (JQ-500)、
クリーンウォッシュ (JC-900)」

アイカが誇る塗壁材「ジョリパット」に、耐候性に優れた「ジョリパットインフィニティ∞」と、ジョリパットの表面汚染を抑えるクリアトップコート「ジョリパットクリーンウォッシュ」が加わりました。



●ジョリパットインフィニティ∞の商品紹介



●ジョリパットクリーンウォッシュの商品紹介

開発者の
声



● 伊藤 由英
化成品カンパニー
技術部
建設樹脂グループ

開発の意図

近年、長期優良住宅、住宅エコポイントなど、住宅の省エネ、高耐久化への関心が高く、外壁材についても汚れにくく、劣化しにくい材料のニーズが高まっています。一般的なアクリル塗料の場合、7～10年ほどで改修されることが一般的になっています。単純に10年ごとに改修すると、50年間で5回改修する必要がある計算になりますが、構造上の問題やコストの問題もあり、現実的なものではありません。このようなことを背景として耐候性、低汚染性に優れた材料を開発することを目的としました。

開発の苦労

ジョリパットインフィニティ∞はアクリル樹脂の選定、紫外線吸収剤の選定に大変時間を費やしました。また、耐候性試験も大変時間がかかるため、何度も改良・検討したことは非常に苦労しました。ジョリパットクリーンウォッシュについてはジョリパットの質感を保ちつつ、低汚染性を付与することに大変苦労しました。

商品の 特徴

ジョリパットインフィニティ∞の最大の特徴は“高耐候性”です。一般的なアクリル系塗材は促進試験(10年相当)するとチョーキング*を起しますが、ジョリパットインフィニティ∞は促進試験(30年相当)をしてもチョーキング*を起しません。

ジョリパットクリーンウォッシュの最大の特徴は“低汚染性”です。ジョリパットクリーンウォッシュを塗布すると汎用塗料でも下記のように低汚染性を付与することができます。



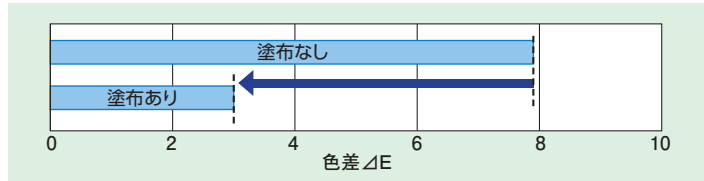
塗布あり



塗布なし

【暴露期間:3ヶ月】(※汚れは環境・条件により異なります)

●ジョリパットクリーンウォッシュ塗布有無での比較効果



色差【ΔE】の数値が小さいほど汚れ抑止効果に優れる

※用語解説

※用語解説「チョーキング」：主に塗装表面が暴露状態の際に紫外線・熱・水分・風等により塗装面の表層樹脂が劣化し、塗料の色成分の顔料がチョーク(白墨)のような粉状になって顕われる現象や状態。

薄物メラミン不燃化粧板「アイカフレアテクト」

メラミン化粧板は当社の主力製品として生産開始から長い年月を経っていますが、その間に関連商品として不燃化粧材「セラルール」を開発して公共物件やキッチンのコンロ周りなど不燃性が必要な箇所に使用されてきました。そんな中、不燃仕様の什器を製作するのに薄物の不燃材はできないかという要望にこたえた商品が「アイカフレアテクト」です。

商品の 特徴

不燃認定材料でありながら、家具・什器・建具として仕上げた際に、木口部分が目立たず、上品な仕上がりになることが特徴です。0.7mmという非常に薄い製品とする事で木口の存在感を低減しました。また、表面色に合わせて基材の色を白、黄色、茶色から適切なものを組み合わせることで、より一体感のある納まりを実現しました。



● 建築材フレアテクト



● 製品写真

開発者の 声



● 香山 和輝
R&Dセンター
甚目寺研究所
化粧材開発チーム

開発の意図

少子高齢化が進む中、老人福祉施設の増加が予想されています。老人福祉施設や保育園、学校教育施設など、避難弱者の方(子供や高齢者など)が利用する施設において、安全性を配慮して、建具や什器などの表面仕上げに不燃材料を要望されるケースが増加しています。また、空港や駅などの公共交通施設や地下施設、高層ビルや大型店舗など、不特定多数の人の出入りのある場所においても同様で、こうしたニーズに応えるため建具・什器に使用できる不燃材料の開発を開始しました。

開発の苦労

従来のメラミン化粧板の特徴である、表面の耐久性(硬さ、汚れへの強さなど)、色柄の豊富さ、加工の容易さをそのまま生かしながら、不燃性能を持たせるという相反する部分をいかに克服するかという点が大きな課題でした。そのために製品の根本的な構成からの見直しが必要であり樹脂技術、不燃化技術を試行錯誤し商品化に至りました。

第三者意見について

●名古屋大学大学院環境学研究科教授

竹内 恒夫

第15回環境コミュニケーション大賞環境報告書部門奨励賞の受賞、まことにおめでとうございます。講評では「9割を超す商品が環境配慮型となり、『本業における環境経営』の高さがうかがえる。」とされ、また、「今後は海外の事業所における取組についても範囲に含めるなどグループ全体としての開示」が期待されています。「本業における環境経営」が高く評価されたことは大きな意義があります。海外の事業所における取組も重点的に扱っていきましょう。

また、アイカ工業は、第15回目の日本経済新聞社主催「企業の環境経営度調査」では、製造業449社中50位に、化学部門では76社中3位のランクになりました。

いずれもアイカ工業のみなさんの環境経営に関する素晴らしい成果の賜です。これを励みに、一層の取組を期待いたします。

さて、「AICA 社会環境報告書2012」に対する第三者意見を述べます。

まず、環境目標と推進状況ですが、地球温暖化防止の輸送トンキロの削減と産業廃棄物の削減については、2011年度実績が2011年度目標をかなり上回っています。2010年度は、地球温暖化防止・産業廃棄物削減関係は軒並み実績が目標を上回っていたことからすれば、少しは改善があったかもしれませんが、これらは「本業における環境経営」の最も基本的な項目ですので、さらなる工夫が必要です。輸送トンの削減は、BCP(Business Continuity Plan)としての他工場での分散生産と密接な関係があるので、容易なことではないかもしれません。

次に、エネルギー関係です。化粧板製造のプレス工程では140°で加熱しますが、立ち上げ時のみ都市ガスを利用した工場内の端材などによる自己燃焼装置



からの熱を活用しています。これ自身も画期的ですが、さらに、ガス(熱)のピークの平準化のため、5台あるプレス機のプレス時間が重ならないように工夫しているのです。また、化粧板のセット工程ではメラミン含浸紙などをオーバーレイの品質確保のため、常時エアコンが要りますが、2011年度には、電気のヒートポンプからガスエンジンヒートポンプに替えています。こんな工夫が重なったことによって、2011年度のCO₂排出量実績が目標量を下回ったのでしょうか。

さらに、廃棄物関係です。アイカ工業の事業所内の産業廃棄物ではなく、お客さま先での廃棄物の増加につながらないかという懸念です。先ほどの輸送トンキロにも関係してくるかもしれません。それは、化粧板の梱包材のことです。少量の化粧板でも、両面をダンボールで梱包し、出荷します。ダンボールはグリーン購入品で100%再生紙でしょうし、そして、お客さまからの要求もあるのですが、「モットイナイ」のです。

最後に、環境コミュニケーション大賞の講評にもあった海外の事業所の取組です。できるだけ早く、海外の事業場でも環境目標を設定し、この社会環境報告書で推進状況を明らかにしていきましょう。



Q・E・O (品質、環境、労働安全衛生) 活動のあゆみ

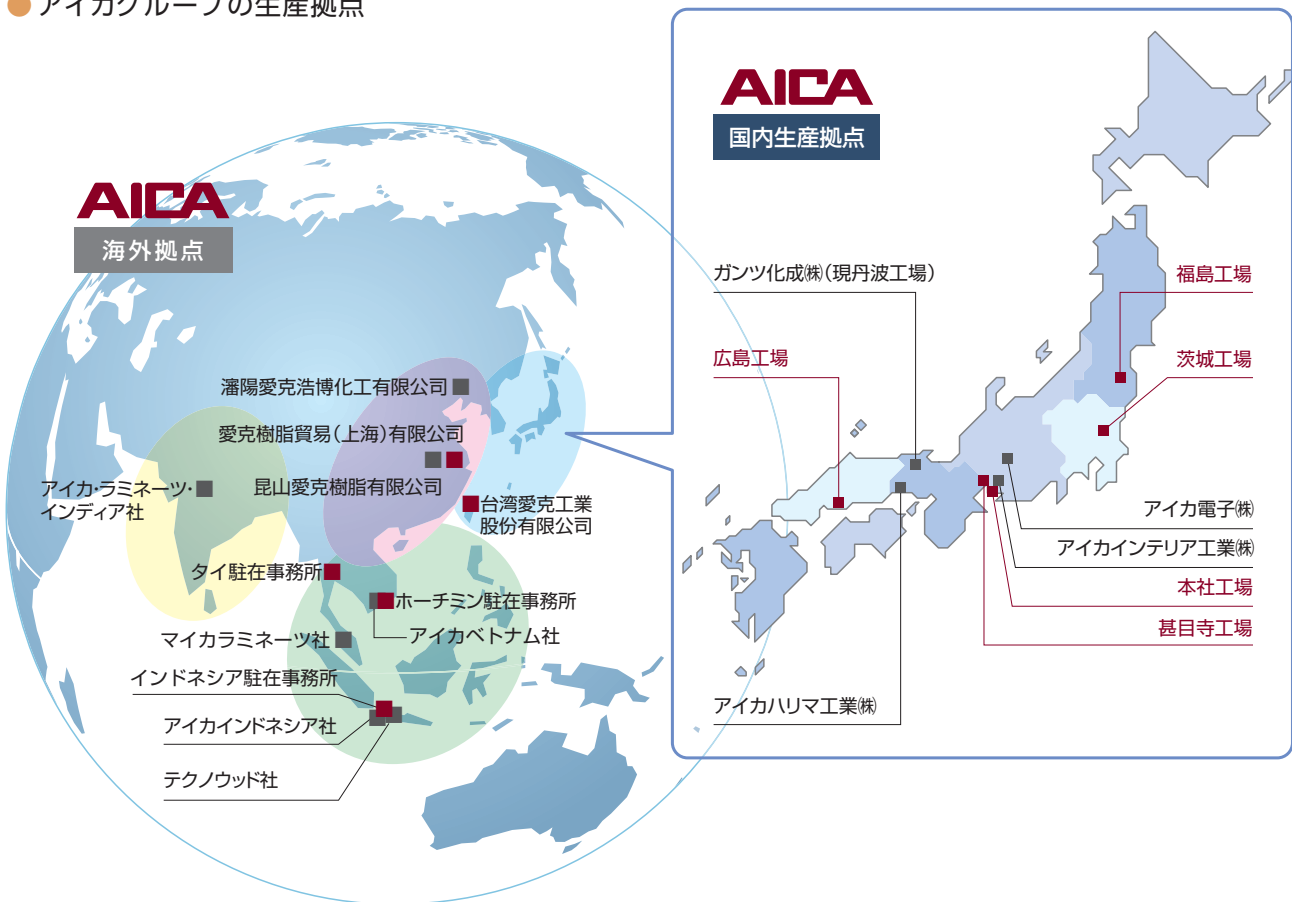
1976年	・安全環境課を設置
1977年	・新川工場に資源回収ボイラーを設置 (産業廃棄物排出量削減に寄与) ・甚目寺工場に排水処理装置(凝集沈殿法)を設置
1978年	・甚目寺工場に冷却塔を設置
1979年	・新川工場に300t水槽を設置(冷却水を回収し再利用を図る)
1981年	・樹液を採り終えたゴムの木を再利用した集材材「イースタンオーク」を発売
1984年	・甚目寺に資源回収ボイラーを設置
1990年	・新川工場に排ガス処理装置(1号)を設置
1993年	・甚目寺工場に排水処理装置(活性汚泥法)を設置
1996年	・アイカ電子(株)がISO9002を認証取得(9月)
1997年	・甚目寺工場がISO9001を認証取得(12月)
1998年	・新川工場に排ガス処理装置(2号)を設置 ・新川工場がISO9001を認証取得(3月) ・アイカ中国(株)がISO9002を認証取得(9月) ・環境理念、環境方針を策定。EMSプロジェクトを発足(10月)
1999年	・新川工場がISO14001を認証取得(9月) ・環境報告書1999を初めて発行。環境会計も公表(11月)
2000年	・大日本色材工業(株)がISO9001を認証取得(1月) ・甚目寺工場がISO14001を認証取得(3月) ・グリーン購入基本方針およびグリーン購入ガイドラインを作成(4月) ・新川工場に廃熱利用排ガス燃焼装置を設置(7月) ・福島工場がISO9001を認証取得(9月) ・アイカ電子(株)がISO14001を認証取得(12月)
2001年	・本社、福島工場がISO14001を認証取得(1月) ・アイカ中国(株)がISO14001を認証取得(2月) ・本社、新川工場、甚目寺工場、福島工場がOHSAS18001の適合証明を受ける(8月) ・本社、新川工場がゼロエミッションを達成(8月) ・福島工場がゼロエミッションを達成(10月) ・甚目寺工場がゼロエミッションを達成(11月) ・エコプロダクツ2001に初めて出展(12月)
2002年	・アイカハリマ工業(株)がゼロエミッションを達成(3月) ・アイカエコエコポンドシリーズを販売(4月) ・新川工場の廃プラ焼却炉を休止(6月) ・メラミン化粧板廃棄物をメラミン化粧板の原材料としてリサイクルする技術を開発(7月) ・メラミン化粧板廃棄物を瓦の原料としてリサイクルする技術を開発(8月) ・アイカ中国(株)がゼロエミッションを達成(8月) ・アイカインテリア工業(株)がゼロエミッションを達成(9月) ・原材料のグリーン購入規定を作成、運用開始(11月)
2003年	・新川工場に廃熱利用排ガス燃焼装置を設置(1月) ・第1回オールアイカ環境会議を開催(2月) ・東京サイトがISO14001を認証取得およびOHSAS18001の適合証明を受ける(3月) ・広島工場がOHSAS18001の適合証明を受ける(3月) ・アイカハリマ工業(株)ISO14001の認証取得、OHSAS18001の適合証明を受ける(3月) ・アイカ電子(株)がゼロエミッションを達成(3月) ・富田社長(当時)が名城大学・日経経営講座で環境経営について講演(7月) ・アイカインテリア工業(株)がISO14001の認証取得、OHSAS18001の適合証明を受ける(9月) ・大日本色材工業(株)がゼロエミッションを達成(9月) ・第2回オールアイカ環境会議を開催(10月) ・ガンツ化成(株)がISO14001を認証取得(10月)

2004年	・第3回オールアイカ環境会議を開催(2月) ・全営業店所、関係会社のアイカエレテック(株)がISO14001の認証取得およびOHSAS18001の適合証明を受ける(3月) ・アイカ電子(株)がOHSAS18001の適合証明を受ける(3月) ・アイカインドネシア社がISO14001の認証取得(4月) ・大日本色材工業(株)がISO14001の認証取得、OHSAS18001の適合証明を受ける(6月) ・新川工場重油ボイラー6基をガスボイラーへ変更(9月) ・第1回アイカグループQEO会議を開催(10月)
2005年	・ガンツ化成(株)がOHSAS18001の適合証明を受ける(1月) ・愛知ブランド企業に認定される(1月) ・第2回アイカグループQEO会議を開催(2月) ・愛知万博「愛・地球博」に花のウォール・ミュージアムを出展(3~4月) ・テクノウッド社(インドネシア)がISO9001の認証取得(5月) ・昆山愛克樹脂有限公司(中国)がISO9001、14001を同時に認証取得(8月) ・瀋陽愛克浩博化工有限公司(中国)がISO14001の認証取得(11月) ・瀋陽愛克浩博化工有限公司(中国)が中国環境標識製品の認証取得(11月)
2006年	・第3回アイカグループQEO会議を開催(2月) ・テクノウッド社(インドネシア)がISO14001の認証取得(3月) ・第4回アイカグループQEO会議を開催(4月)
2007年	・アイカハリマ工業(株)加西工場に排ガス処理装置2基を設置(1月) ・ISO9001システムのアイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、ガンツ化成(株)への拡大・統合(2月) ・第5回アイカグループQEO会議を開催(2月) ・ISO14001およびOHSAS18001システムのアイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、ガンツ化成(株)への拡大・統合(8月) ・愛知ブランド企業の継続認定を受ける(12月)
2008年	・名古屋支店が名古屋市エコ事業所認定取得(1月) ・アイカハリマ工業(株)加西工場に排ガス処理装置1基を増設(1月) ・本社屋上に太陽光発電設備を導入(3月) ・第6回アイカグループQEO会議を開催(3月) ・愛知県と「企業の森づくり協定」の締結。森林整備活動を通じて社会貢献(6月) ・渡辺社長が名城大学で環境経営について講演(10月)
2009年	・甚目寺工場の重油ボイラー4基をガスボイラーへ変更(1月) ・アイカ電子(株)が岐阜県および恵那市と「環境創出協定」を締結(2月) ・茨城工場が茨城県へ茨城エコ事業所を申請(2月) ・名古屋大学社会福祉経済学 寄附講座開設(6月) ・愛知県に「CO2排出削減マニフェスト」を登録(12月) ・仙台支店が仙台市エコにこオフィスに登録(12月)
2010年	・アイカハリマ工業(株)加西工場に熱回収装置を導入(5月) ・アイカハリマ工業(株)本社工場に高効率乾燥炉への更新(6月) ・大阪・神戸・京都の3店所が関西エコオフィスとして関西広域連携協議会の登録を受ける(8月) ・メッセナゴヤ2010に出展(10月) ・エコプロダクツ2010に出展(12月) ・瀋陽愛克浩博化工有限公司(中国)がISO14001の認証を再取得(12月)
2011年	・ガンツ化成(株)丹波事業所、アイカハリマ工業(株)本社工場/加西工場、アイカエレテック(株)、ガンツ化成(株)本社が、関西エコオフィスとして関西広域連携協議会の登録を受ける(2月) ・東日本大震災が発生し、その対応に奮闘する(3月~4月) ・愛知県と「企業の森づくり協定」の締結。森林整備活動を通じての社会貢献を継続(6月) ・甚目寺R&Dセンター屋上に太陽光発電設備を導入(8月)
2012年	・ガンツ化成(株)丹波事業所の灯油ボイラーを液化天然ガスボイラーへ変更(1月)

注) アイカ中国(株)は2002年10月1日からアイカ工業(株)広島工場に、大日本色材工業(株)は2005年4月1日からアイカ工業(株)茨城工場に、新川工場は2005年7月7日から本社工場に、ガンツ化成(株)は2012年4月1日よりアイカ工業(株)丹波工場に変更になっています。

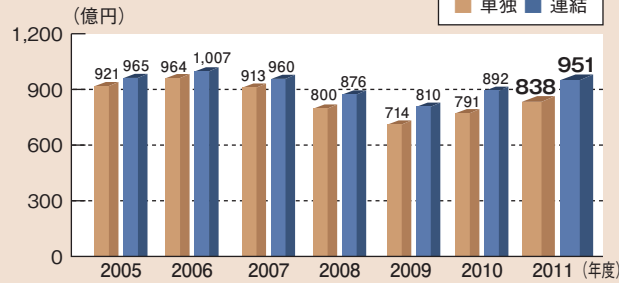
社名	アイカ工業株式会社
本社	〒452-0917 愛知県清須市西堀江2288番地 TEL (052)409-8000(案内)
設立	1936年(昭和11年)10月20日
代表者	代表取締役社長 小野 勇治
資本金	98億9,170万円(2012年3月31日現在)
事業内容	化成品、建装材、住器建材、電子製品等の製造・販売
売上高 (2012年3月期)	837億99百万円(単独)、950億71百万円(連結)
事業所	生産拠点：6ヶ所、開発拠点：4ヶ所、営業拠点：国内22ヶ所(2012年3月31日現在の当社の状況)
従業員数	992名(単独)、1,874名(連結)(2012年3月31日現在の正社員数)
国内の主な 関係会社	アイカインテリア工業株式会社、アイカハリマ工業株式会社、アイカ電子株式会社、 ガンツ化成株式会社、西東京ケミックス株式会社、アイカエレテック株式会社、株式会社アイホー (ガンツ化成株式会社は2012年4月1日付けにてアイカ工業に吸収合併し、同社丹波事業所はアイカ工業丹波工場となりました)
海外の 関係会社	アイカインドネシア社、テクノウッド社、昆山愛克樹脂有限公司、瀋陽愛克浩博化工有限公司、 愛克樹脂貿易(上海)有限公司、台湾愛克工業股份有限公司、アイカ・ラミネーツ・インディア社、 アイカベトナム社

● アイカグループの生産拠点

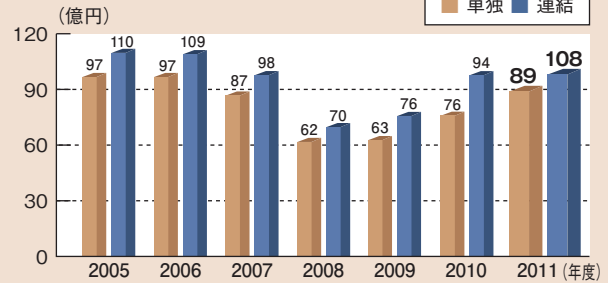


連結対象範囲：アイカ工業(株)、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)、アイカインドネシア社、テクノウッド社、西東京ケミックス(株)、昆山愛克樹脂有限公司、瀋陽愛克浩博化工有限公司、愛克樹脂貿易(上海)有限公司、アイカ・ラミネーツ・インディア社(現丹波工場は関係会社「ガンツ化成株式会社」として表記、集計しています。)

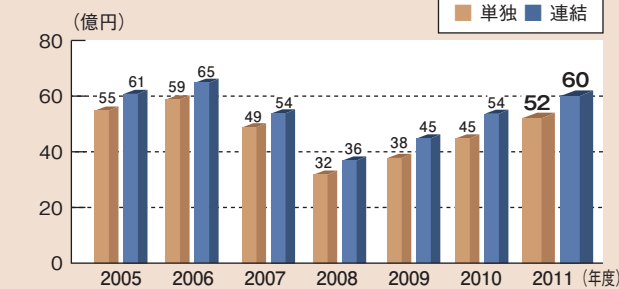
▶売上高推移(単独・連結)



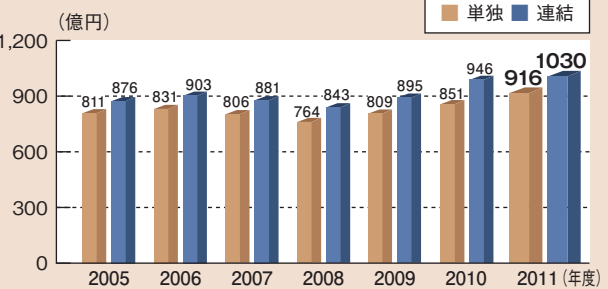
▶経常利益推移(単独・連結)



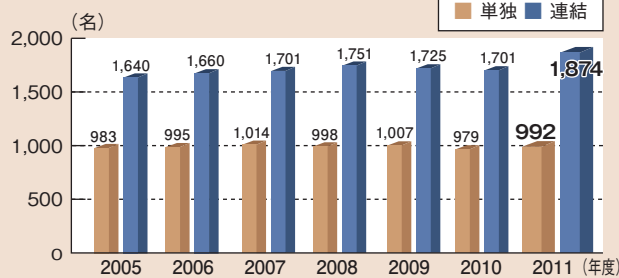
▶純利益推移(単独・連結)



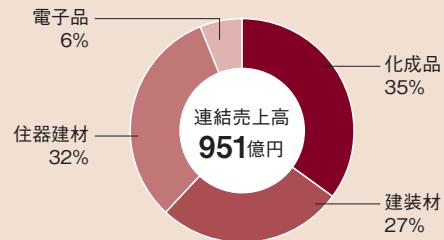
▶総資産推移(単独・連結)



▶従業員数推移(単独・連結)



▶2011年度製品別売上高占有率(連結)



●事業概要

セグメント名	主要品目	事業拠点
化粧品	外装・内装仕上塗材、塗床材、各種接着剤、有機微粒子、他	甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場、ガンツ化成(株)、西東京ケミックス(株)、アイカインドネシア社、昆山愛克樹脂有限公司、瀋陽愛克浩博化工有限公司、愛克樹脂貿易(上海)有限公司
建築材	メラミン化粧板、化粧合板	本社工場、アイカハリマ工業(株)、アイカインドネシア社、テクノウッド社、マイカラミネート社、愛克樹脂貿易(上海)有限公司、アイカ・ラミネーツ・インディア社
住器建材	室内用ドア、インテリア建材、カウンター、収納扉、不燃化粧材	本社工場、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカインドネシア社、愛克樹脂貿易(上海)有限公司
電子品	プリント配線板、電子材料	福島工場、アイカ電子(株)、アイカエレテック(株)

<編集方針>

※この報告書はアイカグループの環境保全活動、社会貢献活動等について、グラフや写真等を使い、わかり易くお伝えすることを念頭に作成しました。対象読者はアイカ商品を使用しているお客さま、取引先、投資家、事業所周辺の住民、企業の環境・安全・品質担当者、行政の担当者、学生の方々です。

※色調の識別に支障がある方に配慮した配色を行っています。

※環境省「環境報告書ガイドライン(2007年度版)」、「環境報告書の記載事項等の手引き」、「環境報告書作成基準案」等を参考に編集しています。

<対象範囲>

※この報告書はアイカ工業株式会社の本社・本社工場、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場及び下記国内関係会社の2011年度(2011年4月1日~2012年3月31日)の活動についてまとめたもので、一部2012年度の活動内容も含んでいます。ただし、対象範囲については報告内容ごとに対象範囲を記載してあります。

アイカインテリア工業株式会社、アイカハリマ工業株式会社、アイカ電子株式会社、ガンツ化成株式会社、株式会社アイホー(現丹波工場は関係会社「ガンツ化成株式会社」として表記、集計しています。)

<発行日>

2012年9月。次回は2013年9月の発行予定です。

住まい空間を演出する

AICA

アイカ工業株式会社

<http://www.aica.co.jp/>

◎お問い合わせ先◎
環境安全部

☎ 052-443-5941



この社会環境報告書は、FSC®の認証紙を使用しています。また、石油系溶剤を減らして植物油に置き換えたインキを使用しています。印刷は、アルカリ性現像液やイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、水なし方式を採用しています。この報告書に使用された電力(使用試算量200kWh)は、グリーン電力証書が発行された自然エネルギーでまかなわれています。([グリーン電力証書]とは、自然エネルギーにより発電された電気の実環境付加価値に対して、証書発行事業者が第三者機関(グリーンエネルギー認証センター)の認証を得て発行するものです。)

©アイカ工業株式会社 本書に収録したものの一部または全部の無断複製・転載を禁じます。